

博士論文（要約）

論文題目 古代東北地方社会構造の研究

氏名 林 正之

# 本文目次

序論 「蝦夷」社会の再検討	1
第1章 研究史	
第1節 三つの視点—戦前の蝦夷研究—	3
第2節 「蝦夷辺民説」の定着（1950年代～1960年代前半）	4
第3節 「蝦夷辺民説」の転換（1960年代後半～1970年代前半）	4
第4節 データの増大と枠組みの完成（1970年代後半～1990年代）	5
第5節 データの総括と新視点の可能性（2000年代～現在）	7
第2章 所謂「末期古墳」とその系譜	
はじめに	11
第1節 研究動向と分析方法	11
第2節 6世紀後半～8世紀代の「末期古墳」の諸側面	12
第3節 末期古墳の系譜	20
第4節 円形周溝の展開過程	30
おわりに	33
第3章 古代東北北部における竪穴住居の導入と展開	
はじめに	43
第1節 研究史	44
第2節 研究の方法	51
第3節 東北北部における竪穴住居の導入過程	53
第4節 律令国家の影響と住居様式の転換（8世紀後半～9世紀中葉）	89
第5節 9世紀後葉から10世紀前半の変動	102
第6節 10世紀後半代～11世紀の転換	117
おわりに	126
第4章 東北北部における鉄製品の独自性 —鉄製鍬先を中心として—	
はじめに	141
第1節 研究動向と分析方法	141
第2節 鍬先の規格と地域性	143
第3節 鍬先出土遺跡の属性	162
おわりに	172
第5章 文献史学との関係	
はじめに	193
第1節 関東の諸豪族と東北—書かれないことの意義—	193

第2節 「蝦夷」を選んだ人々（8世紀後半～9世紀中葉）	194
第3節 元慶の乱と米代川流域・津軽地域	207
おわりに	210

## 結論 「蝦夷」社会の実態

はじめに	213
第1節 東北北部地域における物質文化の錯綜（6世紀末～8世紀前半）	213
第2節 東北北部独自の文化的統合と古代国家の進出（8世紀後半～9世紀中葉）	214
第3節 米代川流域・津軽地域開発のインパクト（9世紀後半～10世紀前半）	215
第4節 東北北部北半の物質文化上の統合（10世紀後半～11世紀）	216

## 図目次

### 第2章

図1 「末期古墳」分布図	11
図2 土坑系「末期古墳」主体部一覧	13
図3 礫槨系「末期古墳」主体部一覧	14
図4 主体部主軸方向・推定頭位一覧	15
図5 土坑系「末期古墳」立地	16
図6 岩手県山田町房の沢24号墳 勾玉模倣品	17
図7 「末期古墳」墳丘上供献遺物	17
図8 追葬	19
図9 周溝内施設	19
図10 墳丘間埋葬施設	19
図11 礫槨系「末期古墳」立地	19
図12 6世紀後半～7世紀 千葉県・茨城県竪穴系埋葬施設	21
図13 裏込範囲の無い石棺系石室	23
図14 常総・北東北主体部構造比較	23
図15 前方部付設円墳	23
図16 変則的古墳と横穴系埋葬施設	23
図17 墳丘上供献・墳丘間埋葬	25
図18 東北・関東地方環状錫製品集成と出土遺跡地図	26
図19 安久東古墳（宮城県仙台市）	28
図20 瀬戸岡・道場古墳群（東京都あきる野市・日の出町）	28
図21 円形周溝埋葬施設	31
図22 円形周溝墳丘上供献遺物	31
図23 各地における円形周溝の様相	32

### 第3章

図1	渡辺修一による竪穴住居内空間分節	45
図2	谷匂によるカマドの分類	45
図3	北陸における竪穴住居と煮炊具	45
図4	筒状・板状土製品の分布	45
図5	桜井清彦による東北北部の竪穴住居の分類	48
図6	板壁立竪穴住居	48
図7	高橋学による秋田県内カマドの分類	48
図8	高島成侑による竪穴・掘立柱併用建物復元	48
図9	村田晃一による宮城県内のカマドの分類	48
図10	三浦圭介による津軽地域竪穴住居の分類	48
図11	松本健速による東北北部の竪穴住居の分類	48
図12	分類の基準	52
図13	5世紀後半～6世紀前半の竪穴住居	52
図14	上北地域	54
図15	八戸地域	54
図16	二戸地域	56
図17	三陸地域	58
図18	盛岡地域の集落	60
図19	北上地域	61
図20	水沢地域	61
図21	津軽地域	63
図22	鹿角地域	63
図23	秋田地域	63
図24	横手地域	63
図25	石狩地域	65
図26	宮城県大崎平野	67
図27	宮城県仙台平野	69
図28	山形盆地	71
図29	米沢盆地	71
図30	会津盆地	71
図31	阿賀北地域	71
図32	関東甲信越竪穴住居の主軸方向とカマド設置位置	76
図33	6世紀後半～7世紀代の長煙道・短煙道・無煙道	78
図34	長胴甕をカマドの芯材とする事例の分布	81
図35	切石・切石状粘土ブロックをカマドの芯材とする事例の分布	81
図36	関東を中心とした筒形土製品の分布	83
図37	加工石材による支脚の分布	85
図38	張出施設をもつ竪穴住居分布	85
図39	住居コーナー部にカマドをもつ竪穴住居分布	85

図 40	8 世紀後半～9 世紀前半	宮城県北部	91
図 41	8 世紀後半～9 世紀前半	水沢地域	92
図 42	8 世紀後半～9 世紀前半	北上地域	92
図 43	8 世紀後半～9 世紀前半	盛岡地域	94
図 44	8 世紀後半～9 世紀前半	山形盆地	95
図 45	8 世紀後半～9 世紀前半	横手盆地	95
図 46	8 世紀後半～9 世紀前半	秋田平野	95
図 47	8 世紀後半～9 世紀前半	下北地域	97
図 48	8 世紀後半～9 世紀前半	上北地域南部	97
図 49	8 世紀後半～9 世紀前半	八戸地域	97
図 50	8 世紀後半～9 世紀前半	二戸・一戸地域	97
図 51	9 世紀前半	津軽地域	99
図 52	8 世紀後半～9 世紀前半	鹿角地域	99
図 53	8 世紀後半～9 世紀前半	石狩低地	99
図 54	8 世紀後半～9 世紀前半	の道南地域	101
図 55	9 世紀後葉～10 世紀前半	城柵設置地域内の竪穴住居空間分節	103
図 56	9 世紀後葉～10 世紀前半	米代川流域の竪穴住居空間分節	103
図 57	9 世紀後葉～10 世紀前半	米代川流域の住居	104
図 58	9 世紀後葉～10 世紀前半	津軽・青森地域	106
図 59	9 世紀後葉～10 世紀前半	津軽・青森地域の住居	108
図 60	10 世紀前半	上北地域北部	110
図 61	9 世紀後葉～10 世紀前半	上北地域南部	110
図 62	9 世紀後葉～10 世紀前半	八戸・三戸地域	110
図 63	9 世紀後葉～10 世紀前半	の安比川流域 (二戸市・八幡平市)	112
図 64-1	安比川流域の住居の様相①		112
図 64-2	安比川流域の住居の様相②		113
図 65	馬淵川流域・九戸・三陸地域の主軸方向・カマド設置位置		113
図 66	砂底土器分布		113
図 67	10 世紀中葉「3 点セット住居」の密集・整列		119
図 68-1	津軽・青森地域低地部排水路付集住型集落①		120
図 68-2	津軽・青森地域低地部排水路付集住型集落②		122
図 69	10 世紀中葉	上北地域北部 発茶沢 (1) 遺跡	124
図 70	10 世紀中葉	上北地域南部 主軸方向・カマド様相	124
図 71	10 世紀後葉～11 世紀の上北地域		125
図 72	10 世紀後葉～11 世紀の八戸地域集落		127

#### 第 4 章

図 1	鍬先概念図	141
図 2	関東地方 5 世紀代鍬先	144
図 3	関東地方 6 世紀前半代鍬先	144

図 4	関東地方 6 世後半～7 世紀前半代鋤先	144
図 5	東駿河・甲信地方 6～7 世紀代鋤先	144
図 6	過渡的形態の鋤先	145
図 7	初期の新 U 字形鋤先	145
図 8	8 世紀後半～10 世紀の新 U 字形鋤先とその装着用だい	147
図 9	11～12 世紀の新 U 字形鋤先	147
図 10	凹字形鉄板（山口 P 類）	147
図 11	7 世紀～8 世紀前葉の東北北部における鋤先	155
図 12	8 世紀中葉～9 世紀中葉の東北北部における鋤先	155
図 13	9 世紀後葉～10 世紀前葉の東北北部における新 U 字形鋤先	156
図 14	9 世紀後葉の北東北 A 類鋤先	156
図 15	9 世紀末葉～10 世紀初頭の北東北 A 類鋤先	156
図 16	10 世紀前～中葉の岩手・宮城県における北東北 A 類鋤先	158
図 17	10 世紀前～中葉の秋田県における北東北 A 類鋤先	158
図 18	10 世紀前～中葉の青森県における北東北 A 類鋤先	158
図 19	北東北 B 類鋤先	160
図 20	北東北 C 類鋤先	160
図 21	北東北 D 類鋤先	160
図 22	10 世紀後半～11 世紀の北東北における鋤先	161

## グラフ目次

### 第 2 章

グラフ 1	主体部内土坑土器副葬比較	17
グラフ 2	古墳群別玉系・刀系比較	17
グラフ 3	環状錫製品規格の遺跡間比較	26

### 第 4 章

グラフ 1-1-1	南東北（宮城・山形・福島）鋤先風呂規格	146
グラフ 1-1-2	南東北（宮城・山形・福島）鋤先全体規格	146
グラフ 1-2-1	宮城県鋤先風呂規格	146
グラフ 1-2-2	宮城県鋤先全体規格	146
グラフ 1-3-1	山形県鋤先風呂規格	147
グラフ 1-3-2	山形県鋤先全体規格	147
グラフ 1-4-1	福島県鋤先風呂規格	147
グラフ 1-4-2	福島県鋤先全体規格	147
グラフ 1-5-1	関東地方鋤先風呂規格	148

グラフ 1-5-2	関東地方全体風呂規格	148
グラフ 1-6-1	栃木県鍬先風呂規格	148
グラフ 1-6-2	栃木県鍬先全体規格	148
グラフ 1-7-1	群馬県鍬先風呂規格	149
グラフ 1-7-2	群馬県鍬先全体規格	149
グラフ 1-8-1	茨城県鍬先風呂規格	149
グラフ 1-8-2	茨城県鍬先全体規格	149
グラフ 1-9-1	埼玉県鍬先風呂規格	150
グラフ 1-9-2	埼玉県鍬先全体規格	150
グラフ 1-10-1	東京都鍬先風呂規格	150
グラフ 1-10-2	東京都鍬先全体規格	150
グラフ 1-11-1	千葉県鍬先風呂規格	151
グラフ 1-11-2	千葉県鍬先全体規格	151
グラフ 1-12-1	神奈川県鍬先風呂規格	151
グラフ 1-12-2	神奈川県鍬先全体規格	151
グラフ 2-1-1	青森県鍬先風呂規格	160
グラフ 2-1-2	青森県鍬先全体規格	160
グラフ 2-2-1	岩手県鍬先風呂規格	161
グラフ 2-2-2	青森県鍬先全体規格	161
グラフ 2-3-1	秋田県鍬先風呂規格	161
グラフ 2-3-2	秋田県鍬先全体規格	161

## 表目次

### 第2章

表1	底部穿孔土器類墳丘上供献一覧	25
表2	主体部上供献一覧	25
表3	墳丘上馬具供献一覧	25
付表1	「末期古墳」一覧	41
付表2	円形周溝一覧	41

### 第4章

表1-1	青森県（日本海側）出土鍬先編年（1/20）	164
表1-2	青森県（太平洋側）出土鍬先編年（1/20）	165
付表	鍬先出土遺跡一覧	185

本文は、5年以内に出版の予定である。

## <引用文献>

### 【単著・論文】

- 青木敬 2005 「後・終末期古墳の土木技術と横穴式石室—群集墳築造における“畿内と東国”」 『東国史論』 第 20 号 群馬考古学研究会
- 浅香年木 1971 『日本古代手工業史の研究』 法政大学出版局
- 安藤鴻基 1981 「変則的古墳」 雑考 『小台遺跡発掘調査報告書』 小台遺跡調査会
- 安藤美保・篠原睦美 1995 「方形周溝遺構と側壁抉込土坑の概観」 『東日本に於ける奈良・平安時代の墓制-墓制をめぐる諸問題-』 第 4 分冊 東日本埋蔵文化財研究会栃木大会準備委員会
- 安間拓巳 2007 『日本古代鉄器生産の考古学的研究』 溪水社
- 飯塚武司 2000 「古代手工業生産における木工」 『考古学研究』 47(3)
- 五十嵐聡江 2004 「「末期古墳」の展開とその社会的背景（上）」 『筑波大学先史学・考古学研究』 第 15 号 筑波大学先史学・考古学研究編集委員会
- 五十嵐聡江 2005 「「末期古墳」の展開とその社会的背景（下）」 『筑波大学先史学・考古学研究』 第 16 号 筑波大学先史学・考古学研究編集委員会
- 池上悟 1993 「古墳出土の琥珀玉」 『立正大学文学部論叢』 97 立正大学文学部
- 池野正男 2014 「越中における古代集落の堅穴建物と掘立柱建物」 『大境』 第 33 号
- 石井淳 1997 「北日本における後北 C2-D 式期の集団様相」 『物質文化』 63 物質文化研究会
- 石野博信 1975 「考古学から見た古代日本の住居」 大林太良編 『日本古代文化の探求・家』 社会思想社
- 石橋充 1995 「常総地域における片岩使用の埋葬施設について」 『筑波大学先史学・考古学研究』 第 6 号 筑波大学歴史・人類学系
- 石部正志 1975 「古墳文化論」 『日本史を学ぶ』 1 原始・古代 有斐閣
- 板橋範芳 2000 「道目木遺跡埋没家屋調査概報」 『大館郷土博物館研究紀要 火内』 創刊号 大館市郷土博物館
- 市毛勲 1963 「東国における墳丘裾に内部施設を有する古墳について」 『古代』 第 41 号 早稲田大学考古学会
- 伊東信雄 1955 「考古学上から見た東北古代文化」 古田良一博士還暦記念会 『東北史の新研究』 文理出版
- 伊東信雄 1976 「東北古代文化の研究—私の考古学研究—」 東北考古学会 『東北考古学の諸問題』 東出版寧楽社
- 伊藤博幸 1980 「胆沢城と古代集落—自然村落と計画村落—」 『日本史研究』 215 号 日本史研究
- 井上光貞 1965 「陸奥の族長、道嶋宿禰について」 『日本古代国家の研究』 岩波書店
- 今泉隆雄 1986 「蝦夷の朝貢と饗給」 高橋富雄編 『古代東北史の研究』 吉川弘文館
- 今泉隆雄 1992 「律令国家とエミシ」 須藤隆 今泉隆雄 坪井清足編 『新版 古代の日本 第九巻 東北・北海道』 角川書店
- 茨木光裕 2001 「村山地方における箱式石棺の再検討」 『庄内考古学』 第 21 号 庄内考古学研究会
- 岩崎卓也 1992 「関東地方東部の前方後円形小墳」 『国立歴史民俗博物館研究報告』 第 44 集 国立歴史民俗博物館
- 上田直見・室賀照子 2007 「古代大和を中心とした有機質玉類の流通について」 『研究紀要』 第 12 集 由良大和古代文化研究協会
- 上野恵司 1993a 「総における古墳時代後期の埋葬施設の研究—箱式石棺—」 『立正考古』 第 32 号 立正大学考古学研究会
- 上野恵司 1993b 「総における横穴式石室の研究—東南部ニュータウン地区内の横穴式石室—」 『多知波奈考古』 創刊号 橋考古学会
- 氏家和典 1957 「東北土師器の型式分類とその編年」 『歴史』 14 号 東北史学会
- 氏家和典 1967 「陸奥国分寺出土の丸底坏をめぐって—奈良、平安期土師器の諸問題—」 『山形県の考古と歴史』 山教史学会

- 宇田川浩一 2005 「元慶の乱」前後の集落と生業—米代川流域と旧八郎湖東北岸の違い—『第31回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』古代城柵官衙遺跡検討会
- 宇部則保 1989 「青森県における7・8世紀の土師器—馬淵川下流域を中心として—」『北海道考古学』25輯 北海道考古学会
- 宇部則保 2002 「東北北部型土師器にみる地域性」『海と考古学とロマン 市川金丸先生古稀記念献呈論文集』市川金丸先生古稀を祝う会(福田友之・成田道彦・白鳥文夫)
- 宇部則保 2019 「古代都母の地域様相」北東北古代集落遺跡研究会『北奥羽の古代社会—土器変容・竪穴建物と集落の動態—』高志書院
- 大賀克彦 2010 「群集墳築造の二つの契機」『遠古登攀 遠山昭登君追悼考古学論集』同刊行会
- 大谷宏治 2010 「副葬品からみた無袖石室の位相」『東日本の無袖横穴式石室』雄山閣
- 大村直 1996 「鉄製農工具の組成比」『史館』28
- 小川貴司 1980 「出土鉄製品とその問題点」『碓ヶ関村古館遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書54, 青森県教育委員会
- 小口雅史 2003 「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題—十和田aと白頭山(長白山)を中心に—」『日本律令制の展開』吉川弘文館
- 小沢洋 1990 「総括」『小浜遺跡群Ⅲ』君津郡市文化財センター発掘調査報告書第47集 君津郡市文化財センター
- 利部修 1993 「下藤根遺跡出土土師器の再検討」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第8号 秋田県埋蔵文化財センター
- 利部修 2000 「平安時代の砂底土器と東北北部型長頸瓶」『考古学ジャーナル』No462 ニュー・サイエンス社
- 春日真実 1996 「越後における5~8世紀の竪穴建物」『新潟考古学談話会』第16号 新潟考古学談話会
- 春日真実 2005 「北陸地方における7世紀の様相—越後を中心に—」日本考古学協会2005年度福島大会実行委員会編『日本考古学協会2005年度福島大会 シンポジウム資料集』シンポジウム2「7世紀の東日本—変革期の諸相—」
- 春日真実 2006 「古代越後の集団と地域」熊田亮介・坂井秀弥編 小林昌二監修『日本海域歴史体系』第二巻 古代篇Ⅱ 清文堂
- 加藤隆則 2016 「日本海域の動態②太平洋側」日本考古学協会『「北東北9・10世紀社会の変動」研究報告書 資料集』日本考古学協会2016年度弘前大会
- 門脇禎二 1953 「蝦夷の叛乱—その前章—」『立命館文学』第96号 立命館大学人文科学研究所
- 菊池賢 2003 「古代台太郎ムラについての若干の考察」岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター『台太郎遺跡第44次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書422
- 菊池芳朗 2005 「群小墳の成立・展開とその意義」『待兼山考古学論集—都出比呂志先生退任記念—』大阪大学考古学研究室
- 喜田貞吉 1916 「蝦夷の順服と奥羽の拓殖」日本歴史地理学会『奥羽沿革史論』仁友社
- 喜田貞吉 1928a 「東北民族研究序論」『東北文化研究』第1巻第1号 東京史誌出版社
- 喜田貞吉 1928b 「竪穴民族の研究に就いて」『東北文化研究』第1巻第1号 東京史誌出版社
- 喜田貞吉 1933 「北海道に於ける所謂「古墳」に就いて」『蝦夷往来』第9号 尚古堂
- 喜田貞吉 1936 「日本石器時代の終末期に就いて」『ミネルヴァ』4月号 翰林書房
- 北野博司 1995 「北陸の7世紀後半の社会—総論—」『北陸古代土器研究』第5号 北陸古代土器研究会
- 北野博司 1997 「古代北陸の地域開発と出羽」『蝦夷・律令国家・日本海』日本考古学協会1997年度秋田大会実行委員会
- 北東北古代集落遺跡研究会(代表研究者 船木義勝)2014 『9~11世紀の土器編年構築と集落遺跡の特質から見た、北東北世界の実態的研究』北東北古代集落研究会

- 木村高 2016「青森地域の土師器生産」日本考古学協会『「北東北9・10世紀社会の変動」研究報告書 資料集』日本考古学協会 2016年度弘前大会
- 草間俊一 1959『浮島古墳 沢口遺跡』岩手町教育委員会 岩手町郷土史研究会
- 工藤竹久 1992a「第IV章 考察 2 遺構について」『丹後平古墳』八戸市埋蔵文化財調査報告書第44集 八戸市教育委員会
- 工藤竹久 1992b「第IV章 考察 3 副葬品・供献品について」『丹後平古墳』八戸市埋蔵文化財調査報告書第44集 八戸市教育委員会
- 工藤雅樹 1988「古代蝦夷とその社会」北海道・東北史研究会『北からの日本史』三省堂
- 工藤雅樹 1989「石城、石背両国の分置と広域陸奥国の復活」関晃先生古稀記念会『律令国家の構造』吉川弘文館
- 工藤雅樹 1996「西根町子飼沢山遺跡、暮坪遺跡、岩手町横田館遺跡発掘調査概要」『岩手考古学』第8号 岩手考古学会
- 工藤雅樹 1998『東北考古学・古代史学史』吉川弘文館
- 熊谷公男 1986「阿倍比羅夫北征記事に関する基礎的考察」高橋富雄編『東北古代史の研究』吉川弘文館
- 熊谷公男 1989「黒川以北十郡の成立」『東北学院大学 東北文化研究所紀要』第21号 東北学院大学東北文化研究所
- 熊谷公男 1997「第五節 道嶋氏の活躍」『石巻の歴史』第一巻 通史編（上）
- 熊谷公男 2000「養老四年の蝦夷の反乱と多賀城の創建」『国立歴史民俗博物館研究報告』第84集 国立歴史民俗博物館
- 熊谷公男 2004『古代の蝦夷と城柵』歴史文化ライブラリー178 吉川弘文館
- 熊谷公男 2010「元慶の乱の「史闕」記事をめぐって」『国史談話会雑誌』第50号 東北大学国史談話会
- 熊谷公男 2016「元慶の乱と北方蝦夷集団」『三十八年戦争と蝦夷政策の転換』東北の古代史④ 吉川弘文館
- 熊田亮介 1986「元慶の乱関係史料の再検討」『新潟大学教育学部紀要人文科学編』27巻2号
- 熊田亮介 1987「賊気已衰—元慶の乱小考」『日本歴史』465号
- 車崎正彦 1987「房総豪族層の動向」『古代』第83号 早稲田大学考古学会
- 黒沢彰哉 1993「常総地域における群集墳の一考察 —茨城県新治郡千代田町大塚古墳群の分析から—」『婆良岐考古』第15号 婆良岐考古同人会
- 桑原滋郎 1976「東北北部および北海道の所謂第I形式の土師器について」『考古学雑誌』第61巻第4号 日本考古学会
- 小嶋芳孝 1996「蝦夷とユーラシア大陸の交流」鈴木靖民編『古代蝦夷の世界と交流』古代王権と交流1 名著出版
- 古代城柵官衙遺跡検討会 1993『第18回古代城柵官衙遺跡検討会』シンポジウム北日本における律令期の土器様相
- 古代城柵官衙遺跡検討会
- 後藤寿一 1935「石狩国江別町の竪穴住居跡について 江別遺跡調査報告第二報」『考古学雑誌』第25巻第2号
- 小林行雄 1958『民族の起源』日本文化研究1 新潮社
- 小松正夫 1996「元慶の乱期における出羽国の蝦夷社会」鈴木靖民編『古代蝦夷の世界と交流』古代王権と交流1 名著出版
- 斎藤淳 2019「集落・竪穴建物動態から見た北奥古代史」北東北古代集落遺跡研究会『北奥羽の古代社会—土器変容・竪穴建物と集落の動態—』高志書院
- 斉藤あや 2008「研究ノート 古墳時代後期における琥珀製棗玉の再検討—地域的偏在と大型化—」『史叢』第78号 日本大学史学会
- 佐伯秀人 2002「日の出町周辺の古墳」『多摩川流域の古墳時代-国府以前の様相-』多摩地域史研究会第12回大会 発表要旨 多摩地域史研究会

- 櫻井清彦 1958「東北地方北部における土師器と竪穴に関する諸問題」『館址—東北地方に於ける集落址の研究—』  
東京大学出版会
- 櫻田隆 1993『『砂底』土器考』『翔古論集 久保哲三先生追悼論文集』久保哲三先生追悼論文集刊行会
- 櫻田隆 1999「古代の集落構成について」秋田県教育委員会『池内遺跡 遺物・資料編』秋田県文化財調査報告書第  
282集
- 佐々木憲一編 2007『関東の後期古墳群』考古学リーダー12 六一書房
- 佐々木稔 2008『鉄の時代史』雄山閣
- 佐藤鎮雄 2011『やまがたの古墳時代』山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
- 佐藤智生 2004「平安時代における青森県上北郡の様相について—主に上北北部における10～11世紀の動向と予察—」  
青森県教育委員会 2004『向田(35)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第373集
- 佐藤信行 1976「東北地方の後北式文化」東北考古学会『東北考古学の諸問題』東出版寧楽社
- 菅原祥夫 2013「陸奥南部の国造域における大化前後の在地社会変化と歴史的意義」『日本考古学』第35号 日本  
考古学協会
- 杉本良 1998「岩手県北上盆地における蝦夷(エミシ)集団の動態—北上市藤沢遺跡の再検討から—」『考古学研究』  
第45巻第1号
- 杉山晋作 1969「所謂『変則的古墳』の分類について」『茨城考古学』2 茨城考古学会
- 高木晃 2002「第2節古墳時代(9)遺物各論」『中半入遺跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵  
文化財調査報告書第380集
- 高島成侑 1989「発茶沢遺跡の建築跡について」青森県教育委員会『発茶沢(1)遺跡IV』青森県埋蔵文化財調査報告  
書第120集
- 高橋一夫 1976「製鉄遺跡と鉄製農具」『考古学研究』22(3)
- 高橋義介 1983「岩手県における奈良・平安時代の鉄製品について」『岩手県埋蔵文化財センター紀要』4
- 高橋千晶 1997「岩手県の横穴式石室と前方後円墳」『シンポジウム横穴式石室と前方後円墳 発表要旨資料』第2  
回東北・関東前方後円墳研究会大会
- 高橋千晶 2004「胆沢城と蝦夷社会」蝦夷研究会 2004『古代蝦夷と律令国家』奥羽史研究叢書7 高志書院
- 高橋富雄 1963『蝦夷』吉川弘文館
- 高橋信雄 1982a「古代」『岩手の土器』岩手県立博物館
- 高橋信雄 1982b「東北地方北部の土師器と古代北海道系土器との対比」『北奥古代文化』第13号 北奥古代文化研  
究会
- 高橋信雄 1987「岩手県における末期古墳の再検討」『北奥古代文化』第18号
- 高橋学 1984「奈良・平安時代の竪穴住居跡復原—カマドの類型化作業を通じて—」『秋田考古学』第38号 秋  
田考古学協会
- 高橋学 1989「竪穴住居と掘立柱建物が並列して構築される遺構について—能代市福田遺跡・十二林遺跡を端緒とし  
て—」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』第4号 秋田県埋蔵文化財センター
- 高橋学 2010「囲郭集落の系譜」小松正夫編著『北方世界の考古学』すいれん舎
- 高橋学 2019「竪穴・掘立柱併用建物の成立と展開」北東北古代集落遺跡研究会『北奥羽の古代社会—土器変容・竪  
穴建物と集落の動態—』高志書院 pp.143-175
- 高橋玲子 2001「平安時代東北地方における掘立柱施設付竪穴住居について」『秋田考古学』第47号 秋田考古学  
協会
- 瀧瀬芳之 1997「金属製品」『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第190集
- 田中史生 1997「桓武朝の百濟王氏」『日本古代国家の民族支配と渡来人』校倉書房

- 田中則和 1995 「安久東古墳群」『仙台市史』特別編 2 考古資料 仙台市
- 田中広明 1997 「中堀遺跡の特色と歴史的 성격」『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 190 集
- 田中広明 2003 『地方の豪族と古代の官人』柏書房
- 田中裕 2010 「千葉県」『前方後円墳の終焉』雄山閣
- 谷旬 1982 「古代東国のカマド」『千葉県文化財センター研究紀要』7 千葉県文化財センター
- 辻秀人 1990 「東北古墳時代の画期について (その二)」『伊藤信雄先生追悼 考古学古代史論攷』吉川弘文館
- 辻秀人 1996 「蝦夷と呼ばれた社会—東北北部社会の形成と交流—」『古代蝦夷の世界と交流』古代王権と交流 1 名著出版
- 津嶋知弘 2004 「志波城と蝦夷社会」 蝦夷研究会 2004 『古代蝦夷と律令国家』奥羽史研究叢書 7 高志書院
- 津田左右吉 1924 「東国及びエミシに関する物語」『古事記及日本書紀の研究』岩波書店
- 津田 左右吉 1925 「肅慎考(上)(下)」『日本上代史研究』岩波書店
- 津田 左右吉 1926 「肅慎考(上)(下)」『日本上代史研究』岩波書店
- 都出比呂志 1967 「農具鉄器化の二つの画期」『考古学研究』13(3)
- 都出比呂志 1969 「-書評-原島礼二著『日本古代社会の基礎構造』」『日本史研究』107
- 津野仁 2009 「第 6 節 カマドの構造からみた東北との交流」財団法人栃木県文化振興事業団『青龍淵遺跡・皇宮前塚』栃木県埋蔵文化財調査報告 第 317 集
- 鶴間正昭 2011 「堅穴住居にみられる張り出し貯蔵穴」『東京考古』29 東京考古談話会
- 土井義夫 1971 「関東地方における住居址出土の鉄製農具について」『物質文化』18
- 土井義夫 1976 「鉄製農具研究ノート」『季刊どるめん』10
- 豊田宏良 1992 「北海道」『古墳時代のかまどを考える』
- 成田誠治 1997 「青森県内における平安時代終末期の堅穴住居跡の形態について」『青森県埋蔵文化財調査センター研究紀要』第 2 号 青森県埋蔵文化財調査センター
- 日本考古学協会 1994 『北日本の考古学 南と北の地域性』吉川弘文館
- 日本考古学協会 2016 『「北東北 9・10 世紀社会の変動」研究報告書 資料集』日本考古学協会 2016 年度弘前大会
- 野崎進 1988 「古代の鉄製 U 字形鉄・鋤先をめぐって」『古代集落の諸問題 玉口時雄先生古稀祈年考古学論文集』玉口時雄先生古稀記念事業会
- 長谷部言人 1917 「蝦夷はアイノなりや」『人類学雑誌』『人類学雑誌』第 32 巻第 12 号
- 羽生田純之編 2010 『東日本の無袖横穴式石室』雄山閣
- 林謙作 1978 「「五条丸古墳群」の被葬者たち」『考古学研究』第 25 巻第 3 号 考古学研究会
- 原勝郎 1916 「日本史上の奥州」日本歴史地理学会『奥羽沿革史論』仁友社
- 原島礼二 1968 『日本古代社会の基礎構造』未来社
- 樋口知志 2004 「延暦八年の征夷」蝦夷研究会編『古代蝦夷と律令国家』奥羽史研究叢書 7 高志書院
- 樋口知志 2013 「弘仁二年の征夷を徳丹城の造営」『Artes liberales』No.91 . 岩手大学教養部
- 樋口知志 2013 『阿豆流為』ミネルヴァ書房
- 比佐陽一郎 2004 「錫、鉛製耳環に関する基礎的検討—福岡市内の出土例を中心として—」『古文化談叢』第 50 集 発刊記念論集(下) 九州古文研究会
- 菱田哲郎 2007 『古代日本 国家形成の考古学』諸文明の起源 14, 京都大学学術出版会
- 日高慎 2010 「茨城県」『前方後円墳の終焉』雄山閣
- 藤沢敦 2000 「栗原・登米・本吉地方の古墳墓」『阿部正光君追悼集』阿部正光君追悼集刊行会
- 藤沢敦 2001 「倭の周縁における境界と相互関係」『考古学研究』第 48 巻第 3 号 考古学研究会
- 藤沢敦 2004 「倭の「古墳」と東北北部の「末期古墳」」『古墳時代の政治構造』青木書店
- 藤沢敦 2007 「倭と蝦夷と律令国家—考古学的文化の変移と国家・民俗の境界—」『史林』第 90 巻第 1 号 史学研

研究会

- 古市豊司 1976「堅穴住居跡」青森県教育委員会『黒石市牡丹平南遺跡・浅瀬石遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書 第26集
- 古川一明 1984「1古墳群とその出土遺物」『色麻古墳群』宮城県文化財調査報告書第100集 宮城県教育委員会
- 古庄浩明 1994「古代における鉄製農工具の所有形態—6世紀から10世紀の南関東を中心として」『考古学雑誌』堀部尚志・岡光男校注 1980『耕家春秋』日本農書全集4, 農山漁村文化協会
- 保立道久 2004『黄金国家』青木書店
- 北海道・東北史研究会 1988『北からの日本史』1 三省堂
- 埋蔵文化財研究会編 1992『古墳時代の竈を考える』第32回 埋蔵文化財研究集会
- 松井和幸 1987「日本古代の鉄製鋤先, 鋤先について」『考古学雑誌』72(3)
- 松崎元樹 1990「丘陵地における古代鉄器生産の諸問題—多摩ニュータウン遺跡群の検討—」『東京都埋蔵文化財センター研究論集』
- 松崎元樹 2001「瀬戸岡古墳群の再検討」『東京都あきる野市天神前遺跡ほか』東京都埋蔵文化財センター調査報告第95集 東京都埋蔵文化財センター
- 松崎元樹 2002「多摩川水系にみる古墳文化の地域特性」『多摩川流域の古墳時代—国府以前の様相—』多摩地域史研究会第12回大会発表要旨 多摩地域史研究会
- 松村恵司 1991「古代集落と鉄器所有」『日本村落史講座』4 政治1 (原始・古代・中世), 雄山閣,
- 松本建速 2006『蝦夷の考古学』同成社
- 松本建速 2011『蝦夷とは誰か』ものが語る歴史シリーズ25 同成社
- 松本太郎 2013『東国の土器と官衙遺跡』六一書房
- 三浦圭介 1993「青森県における古代の土器様相」『第18回古代城柵官衙遺跡検討会 特集シンポジウム「北日本における律令期の土器様相」』古代城柵官衙遺跡検討会
- 三浦圭介 2007「津軽地方における古代社会の変質とその様相—特に九世紀後半から十世紀前半にかけての変質について—」天野哲也・小野裕子編『古代蝦夷からアイヌへ』吉川弘文館
- 右島和夫 2004「群集墳の築造背景—堅穴式石槨墳から横穴式石室墳への移行過程—」『福岡大学考古学論集—小田富士雄先生退職記念—』小田富士雄先生退職記念事業会
- 蓑島栄紀 2001「古代出羽地方の対北方交流」蓑島栄紀『古代国家と北方社会』吉川弘文館
- 宮原武夫 1970「—書評—原島礼二著『日本古代社会の基礎構造』」『歴史学研究』364
- 村田晃一 2000「飛鳥・奈良時代の陸奥北辺—移民の時代—」『宮城考古学』第2号 宮城県考古学会
- 室賀照子 1998「古代アンバールート of 解明・主として久慈地方産琥珀の赤外吸収スペクトルについて」『研究紀要』第4集 由良大和古代文化研究協会
- 望月精司 2006「第VII章 総括 額見町遺跡の古代堅穴建物構造と造り付けカマドについて」望月精司 西田由美子『額見町遺跡』I 小松市教育委員会
- 桃崎祐輔 1993「古墳に伴う牛馬供儀の検討—日本列島・朝鮮半島・中国東北地方の事例を比較して—」『古文化談叢』第31集 九州古文化研究会
- 八木光則 1998「馬淵川流域の様相」『第24回古代城柵官衙遺跡検討会資料』古代城柵官衙遺跡検討会
- 八木光則 1999「岩手県における律令期の鉄・鉄器生産」『東北地方に見る律令国家と鉄・鉄器生産』1999年度(第6回)鉄器文化研究会
- 八木光則 2007「松本建速『蝦夷の考古学』」『日本考古学』第23号 日本考古学協会
- 八木光則 2010『古代蝦夷社会の成立』ものが語る歴史21 同成社
- 八木光則 2011「古代北日本における移住・移民」小口雅史編『海峡と古代蝦夷』高志書院

山内清男 1936 「日本考古学の秩序」『ミネルヴァ』5月号 翰林書房  
山内清男 1939 『日本遠古之文化』先史考古学会  
山口直樹 1978 「関東地方土師時代後・晩Ⅰ・晩Ⅱ期における農具について」『駿台史學』415  
山田秀三 1974 「アイヌ語族の居住範囲」山田秀三・新野直吉編『北方の古代文化』毎日新聞社  
吉川真司 2006 「国際交易と古代日本」『京都と北京一日中を結ぶ知の架橋』角川書店  
吉田孝 1996 『日本の誕生』岩波書店  
和田晴吾 1992 「群集墳と終末期古墳」『新版 古代の日本』第五巻 近畿Ⅰ 角川書店  
渡部育子 2010 「列島北部日本海沿岸地域における律令的支配の特質」『国史談話会雑誌』第50号 東北大学国史談話会  
渡辺修一 1985 「古墳時代堅穴住居の構造的変遷と居住空間」『研究連絡誌』11 千葉県文化財センター

## 【報告書】

### 北海道

恵庭市教育委員会 2003 『カリンバ3遺跡』(1)  
江別市教育委員会 1981 『元江別遺跡群』江別市文化財調査報告書XⅢ  
札幌市教育委員会 1993 『K435遺跡』札幌市文化財調査報告書42  
千歳市教育委員会 1978 『祝梅三角山D遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書3  
千歳市教育委員会 1994 『丸子山遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告書19  
北海道大学埋蔵文化財調査室 2012 『北大構内の遺跡』29  
北海道埋蔵文化財センター1998 『ユカンボシC15遺跡』北埋調報第128集  
北海道埋蔵文化財センター2002 『恵庭市西島松5遺跡』北埋調報第178集  
北海道埋蔵文化財センター2007 『キウス9遺跡』

### 青森県

青森県教育委員会 1975 『近野遺跡発掘調査報告書(Ⅱ)』青森県埋蔵文化財調査報告書22  
青森県教育委員会 1976a 『黒石市牡丹平南遺跡・浅瀬石遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第26集  
青森県教育委員会 1976b 『青森市三内遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第37集  
青森県教育委員会 1977 『近野遺跡発掘調査報告書(Ⅲ) 三内丸山(Ⅱ)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第33集  
青森県教育委員会 1980 『碓ヶ関村古館遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第54集  
青森県教育委員会 1985 『沖附(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第100集  
青森県教育委員会 1986 『沖附(2)遺跡：むつ小川原開発事業関係埋蔵文化財調査報告書 昭和60年度』青森県埋蔵文化財調査報告書第101集  
青森県教育委員会 1987 『弥栄平(4)(5)遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第106集  
青森県教育委員会 1988 『小田内沼(1)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第107集  
青森県教育委員会 1989 『発茶沢(1)遺跡発掘調査報告書Ⅳ』青森県埋蔵文化財調査報告書第120集  
青森県教育委員会 1992a 『中野平遺跡 古代編』青森県埋蔵文化財調査報告書第134集  
青森県教育委員会 1992b 『堀切沢(2)(3)(4)(5)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第141集  
青森県教育委員会 1994 『山元(3)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第159集  
青森県教育委員会 1995 『山元(2)遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第171集

- 青森県教育委員会 1996 『野尻(2)遺跡Ⅱ 野尻(3)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第 186 集
- 青森県教育委員会 1998a 『外馬屋前田(1)遺跡発掘調査報告書』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第 242 集
- 青森県教育委員会 1998b 『高屋敷館遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 242 集
- 青森県教育委員会 1998c 『大沢遺跡・寒水遺跡・倉越(2)遺跡Ⅱ・大池館遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書  
第 243 集
- 青森県教育委員会 1998d 『隠川(4)遺跡 隠川(12)遺跡Ⅰ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第 244 集
- 青森県教育委員会 1999 a 『櫛引遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第 263 集
- 青森県教育委員会 1999b 『野木遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第 264 集
- 青森県教育委員会 2000a 『丹内遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第 273 集
- 青森県教育委員会 2000b 『野木遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第 281 集
- 青森県教育委員会 2000c 『岩ノ沢平遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第 287 集
- 青森県教育委員会 2000d 『砂子遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書 第 280 集
- 青森県教育委員会 2001 a 『岩野沢平遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 301 集
- 青森県教育委員会 2001 b 『黒坂遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 306 集
- 青森県教育委員会 2003a 『尾上山遺跡・葦野遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 347 集
- 青森県教育委員会 2003b 『朝日山(2)遺跡Ⅶ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 350 集
- 青森県教育委員会 2004a 『朝日山(2)遺跡Ⅷ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 368 集
- 青森県教育委員会 2004b 『向田(35)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 373 集
- 青森県教育委員会 2005a 『倉越(2)遺跡・大池館遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 389 集
- 青森県教育委員会 2005b 『通目木遺跡・ふくべ(3)遺跡・ふくべ(4)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 392 集
- 青森県教育委員会 2005c 『高屋敷館遺跡Ⅲ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 393 集
- 青森県教育委員会 2005d 『山元(1)遺跡』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 395 集
- 青森県教育委員会 2005e 『林ノ前遺跡』 遺構編 青森県埋蔵文化財調査報告書第 396 集
- 青森県教育委員会 2006a 『宮田館遺跡Ⅴ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 411 集
- 青森県教育委員会 2006b 『野尻(3)遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 414 集
- 青森県教育委員会 2006c 『林ノ前遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 415 集
- 青森県教育委員会 2006 d 『大沢遺跡・寒水遺跡・倉越(2)遺跡Ⅱ・大池館遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第  
417 集
- 青森県教育委員会 2008 『ふくべ(3)遺跡Ⅱ・ふくべ(4)遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書第 457 集
- 青森市教育委員会 2001 『新町野遺跡・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 青森市埋蔵文化財調査報告書第 54 集
- 青森市教育委員会 2007 『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』 青森市埋蔵文化財調査報告書第 93 集
- おいらせ町教育委員会 2007 『阿光坊古墳群発掘調査報告書』 おいらせ町文化財発掘調査報告書第 1 集
- おいらせ町教育委員会 2008a 『中野平遺跡』Ⅶ おいらせ町埋蔵文化財調査報告書第 3 集
- おいらせ町教育委員会 2008b 『中野平遺跡』Ⅷ おいらせ町埋蔵文化財調査報告書 第 4 集
- 尾上町教育委員会 1980 『李平Ⅱ号遺跡発掘調査報告書』
- 尾上町教育委員会 1989 『原遺跡発掘調査報告書』
- 国立歴史民俗博物館 2008 『寒川遺跡・木戸脇裏遺跡・森ヶ沢遺跡発掘調査報告』 国立歴史民俗博物館研究報告 下  
第 144 集
- 五所川原市教育委員会 1998 『犬走須恵器窯跡発掘調査報告書』 五所川原市埋蔵文化財調査報告書 21
- 下田町教育委員会 1989 『阿光坊遺跡発掘調査報告書』 下田町埋蔵文化財調査報告書第 1 集
- 下田町教育委員会 1990 『阿光坊遺跡発掘調査報告書』 下田町埋蔵文化財調査報告書第 2 集

- 下田町教育委員会 1996 『中野平遺跡』 下田町埋蔵文化財調査報告書第 7 集
- 下田町教育委員会 2001 『立蛇 (1) 遺跡』 下田町埋蔵文化財調査報告書第 16 集
- 野辺地町教育委員会 2001 『向田 (2 4) 遺跡 有戸鳥井平 (4) 遺跡 有戸鳥井平 (5) 遺跡』 野辺地町文化財調査報告書 第 7 集
- 八戸市教育委員会 1983a 『史跡根城跡発掘調査報告書Ⅳ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 9 集
- 八戸市教育委員会 1983b 『史跡根城跡発掘調査報告書Ⅴ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 11 集
- 八戸市教育委員会 1988 『田面木平遺跡(1)』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 20 集
- 八戸市教育委員会 1989a 『熊野堂遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 32 集
- 八戸市教育委員会 1989b 『田面木平 (1) 遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 34 集
- 八戸市教育委員会 1990 『見立山(2)』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 38 集
- 八戸市教育委員会 1991 『八戸新都市区域内埋蔵部下材発掘調査報告書Ⅸ(湯浅屋新田 (2) )』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 37 集
- 八戸市教育委員会 1992a 『丹後平古墳』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 44 集
- 八戸市教育委員会 1992b 『風張 (1) 遺跡Ⅱ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 42 集
- 八戸市教育委員会 1994a 『殿見遺跡発掘調査報告書Ⅰ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 49 集
- 八戸市教育委員会 1994b 『夏間木 (1) 遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 56 集
- 八戸市教育委員会 1995a 『殿見遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 57 集
- 八戸市教育委員会 1995b 『上七崎遺跡 蛇ヶ沢遺跡 上蛇沢遺跡』Ⅲ 八戸市埋蔵文化財調査報告書 第 62 集
- 八戸市教育委員会 1996 『丹後平(1)遺跡 丹後平古墳』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 66 集
- 八戸市教育委員会 1997 『酒美平遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 73 集
- 八戸市教育委員会 1999 『見立山 (2) 遺跡Ⅱ 平成 7～9 年度発掘調査』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 79 集
- 八戸市教育委員会 2001 『酒美平遺跡Ⅱ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 88 集
- 八戸市教育委員会 2002 『丹後平古墳群』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 93 集
- 八戸市教育委員会 2004a 『館平遺跡』Ⅲ 八戸市埋蔵文化財調査報告書 第 99 集
- 八戸市教育委員会 2004b 『八戸市内遺跡発掘調査報告書 18 (市子林遺跡)』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 102 集
- 八戸市教育委員会 2004c 『牛ヶ沢 (4) 遺跡』Ⅲ 八戸市埋蔵文化財調査報告書 第 104 集
- 八戸市教育委員会 2005 『法霊林遺跡』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 106 集
- 八戸市教育委員会 2006 『田向冷水遺跡Ⅱ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 113 集
- 八戸市教育委員会 2007 『八幡遺跡 発掘調査報告書Ⅳ』Ⅳ 八戸市埋蔵文化財調査報告書 第 115 集
- 八戸市教育委員会 2009a 『八戸市内遺跡発掘調査報告書 26』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 120 集
- 八戸市教育委員会 2009b 『田向遺跡Ⅱ』 八戸市埋蔵文化財調査報告書第 122 集
- 弘前市教育委員会 2007 『堤田遺跡・蒔苗鳥羽遺跡・独狐遺跡発掘調査報告書』
- 森田村教育委員会 2002 『八重菊 (1) 遺跡』Ⅱ 森田村緊急発掘調査報告書 8

## 岩手県

- 一戸町教育委員会 1981 『一戸バイパス関係埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』 一戸町文化財調査報告書第 1 集
- 一戸町教育委員会 1984 『上野遺跡—昭和 58 年度発掘調査報告書—』 一戸町文化財調査報告書 第 7 集
- 一戸町教育委員会 2003 『田中遺跡』 一戸町文化財調査報告書第 46 集
- 一戸町教育委員会 2004 『御所野遺跡Ⅱ』 一戸町文化財調査報告書第 48 集
- 岩手県教育委員会 1963 『五条丸古墳群』 岩手県教育委員会文化財調査報告第 11 集

岩手県教育委員会 1979『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 2』岩手県文化財調査報告書第 32 集

岩手県教育委員会 1981a『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 X (金ヶ崎地区 上餅田遺跡ほか)』岩手県文化財調査報告書第 59 集

岩手県教育委員会 1981b『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 X I (水沢地区 今泉遺跡ほか)』岩手県文化財調査報告書第 60 集

岩手県教育委員会 1981c『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書 X II (石田遺跡)』岩手県文化財調査報告書第 61 集

岩手県教育委員会 1982『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書. 13 太田方八丁遺跡(志波城跡)』岩手県文化財調査報告書. 第 68 集

岩手県埋蔵文化財センター1981a『紫波町稲村遺跡・中田遺跡・古屋敷遺跡(昭和 53 年度、54 年度)』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第 19 集

岩手県埋蔵文化財センター1981b『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 二戸市長瀬 C 遺跡・長瀬 D 遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 22 集

岩手県埋蔵文化財センター1981c『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 二戸市 上田面遺跡 大淵遺跡 火行塚遺跡』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第 23 集

岩手県埋蔵文化財センター1982a『金ヶ崎バイパス関連遺跡発掘調査報告書 II 水沢市膳性遺跡』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第 34 集

岩手県埋蔵文化財センター1982b『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 二戸市(家ノ上遺跡・長瀬 A 遺跡)』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第 35 集

岩手県埋蔵文化財センター1982c『二戸バイパス関連遺跡発掘調査報告書 二戸市(長瀬 B 遺跡)』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第 36 集

岩手県埋蔵文化財センター1983『岩手県安代町上の山 VII 遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財センター調査報告書第 60 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1984a『江刺家遺跡発掘調査報告書』岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書第 70 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1984b『府金橋発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 72 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986a『五庵 I 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 97 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986b『駒板遺跡発掘調査報告書』東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書第 98 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1986c『桂平遺跡発掘調査報告書 東北縦貫自動車道関連遺跡発掘調査報告書第 110 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1988a『飛鳥台地 I 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 120 集

岩手県埋蔵文化財センター1988b『米沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 132 集

岩手県埋蔵文化財センター1990a『駒焼場遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 133 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1990b『源道遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 138 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1991a『馬場遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第137集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1991b『長根Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第146集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1991c『上川岸Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第153集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995a『岩崎台地遺跡群発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第214集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995b『本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第226集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1995c『上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第227集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1998『房の沢Ⅳ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第287集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター1999『台太郎遺跡第15次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第309集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000a『沢田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第318集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2000b『大向上平遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第335集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001a『稲村Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第348集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001b『宮沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第358集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2001c『台太郎遺跡第18次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第369集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002a『大向Ⅱ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第378集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002b『中半入遺跡・蝦夷塚古墳発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第380集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002c『飯岡才川遺跡第3次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第393集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002d『台太郎遺跡第23次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第415集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2002e『台太郎遺跡第26次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第416集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2003a『細谷地遺跡発掘調査報告書―第4・5次調査―』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第414集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2003b『飯岡沢田遺跡第3次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第418集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2003c『飯岡沢田遺跡第5次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第421集

蔵文化財調査報告書第 419 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2003d『野古 A 遺跡第 12 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 420 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2003e『野古 A 遺跡第 15 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 421 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2004a『島田 II 遺跡第 2～4 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 450 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2004b『本宮熊堂 B 遺跡第 20 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 467 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2005『芋田 II 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 457 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006a『本宮熊堂 B 遺跡第 24 次・本宮熊堂 B 遺跡第 25 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 470 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006b『本宮熊堂 B 遺跡第 27 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 487 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2006c『飯岡沢田遺跡第 9・10 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 489 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2007『野古 A 遺跡第 23・24・29 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 501 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2008a『飯岡才川第 7・13 次・細谷地第 12 次・矢盛遺跡第 9 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 508 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2008b『細谷地遺跡第 13 次・第 14 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 513 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2008c『飯岡才川遺跡第 12 次発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書 515 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2008d『桂平 I 遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 538 集

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2010『松山大地田沢遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第 558 集

岩手県立博物館 1987『花巻市熊堂古墳群—昭和 61 年度発掘調査概報』

岩手県立博物館 1990『熊堂古墳群・浮島古墳群発掘調査報告書』岩手県立博物館調査研究報告書第 6 冊

岩手町教育委員会 1959『浮島古墳 澤口遺跡』

江釣子村教育委員会 1978『猫谷地・五条丸古墳群(増補再刊)』

江釣子村教育委員会 1984『江釣子遺跡群 —昭和 58 年度発掘調査報告 (八幡遺跡) —』

江釣子村教育委員会 1985『江釣子遺跡群 —昭和 59 年度発掘調査報告 (塚遺跡・五条丸古墳群) —』

江釣子村教育委員会 1988『江釣子遺跡群』—昭和 62 年度発掘調査報告

江釣子村教育委員会 1990『江釣子遺跡群 —平成元年度発掘調査報告 (和野遺跡・五条丸古墳群) —』

大船渡市教育委員会 2001『中井貝塚 平成 12 年度緊急発掘調査報告書』

金ヶ崎町教育委員会 1968『西根古墳と住居址』

金ヶ崎町教育委員会 1984『水口沢古墳』岩手県金ヶ崎町文化財報告書第 7 集

金ヶ崎町史編纂委員会 2006『金ヶ崎町史』1 原始・古代・中世 金ヶ崎町

北上市埋蔵文化財センター1995『北上遺跡群(1993・1994年度) 蛭川館・本宿羽場』北上市埋蔵文化財調査報告  
第19集

北上市教育委員会 1999『横町遺跡』古代・中世編 北上市埋蔵文化財調査報告第38集

北上市埋蔵文化財センター1999『北上遺跡群(1998年度) 江釣子古墳群』北上市埋蔵文化財調査報告第41集

北上市埋蔵文化財センター2002『立花南遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第49集

北上市埋蔵文化財センター2003『下江釣子羽場遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第59集

北上市埋蔵文化財センター2004a『立花南遺跡(2003年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第63集

北上市埋蔵文化財センター2004b『菅田遺跡』北上市埋蔵文化財調査報告第64集

北上市埋蔵文化財センター2007『立花南遺跡(2005年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第82集

北上市埋蔵文化財センター2009『八幡遺跡(2006・2007年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第98集

北上市埋蔵文化財センター2013『高前壇Ⅱ遺跡(2011年度)』北上市埋蔵文化財調査報告第107集

久慈市教育委員会 1976『山屋敷遺跡発掘調査報告書』Ⅳ 久慈市埋蔵文化財調査報告書第1集

久慈市教育委員会 1988『中長内遺跡』Ⅳ 久慈市埋蔵文化財調査報告書第8集

久慈市教育委員会 2001『平沢Ⅰ遺跡発掘調査報告書』Ⅳ 久慈市埋蔵文化財調査報告書第30集

滝沢村教育委員会 1987a『諸葛川遺跡』滝沢村文化財調査報告書第4集

滝沢村教育委員会 1987b『高柳遺跡』滝沢村文化財調査報告書第7集

滝沢村教育委員会 1989『高柳遺跡 室小路Ⅱ遺跡』滝沢村文化財調査報告書第9集

滝沢村埋蔵文化財センター2003『大釜館遺跡』滝沢村埋蔵文化財センター調査報告書第1集

滝沢村埋蔵文化財センター2009『狐洞遺跡発掘調査報告書』滝沢村埋蔵文化財センター調査報告書 第5集

都南村教育委員会 1979『岩手県紫波郡都南村百目木遺跡—発掘調査報告書—』

遠野市教育委員会 1993『高瀬Ⅰ・Ⅱ遺跡』遠野市埋蔵文化財調査報告書第5集

二戸市教育委員会 1981『中曾根Ⅱ遺跡』

二戸市教育委員会 1991『戸花B遺跡発掘調査報告書』

二戸市埋蔵文化財センター2008『諏訪前遺跡発掘調査報告書 第12次発掘調査』二戸市埋蔵文化財センター調査  
報告書 第1集

二戸市埋蔵文化財センター2011『諏訪前遺跡発掘調査報告書 第8・48次発掘調査』二戸市埋蔵文化財センター調  
査報告書 第9集

野田村教育委員会 2014『中平遺跡 84地点・128地点・309地点 大平野遺跡 20地点 古屋片山遺跡 61地点発掘  
調査報告書』

花巻市教育委員会 1988『花巻市熊堂古墳群—昭和62年度発掘調査概報—』

花巻市教育委員会 1990『花巻市熊堂古墳群—平成元年度発掘調査概報—』

福岡町教育委員会 1965『堀野遺跡』

水沢市教育委員会 1998『胆沢城跡—平成9年度発掘調査概報』

宮古市教育委員会 1992『細越Ⅰ遺跡 芋野Ⅱ遺跡』宮古市埋蔵文化財調査報告書 36

盛岡市教育委員会 1995『小屋塚遺跡—第1～27次調査報告—』盛岡市教育委員会

盛岡市教育委員会 1997『上田蝦夷森古墳群・太田蝦夷森古墳群発掘調査報告書』

盛岡市教育委員会 2005『盛岡市内遺跡群—平成15年度・16年度発掘調査報告—』

盛岡市教育委員会 2006『盛岡市内遺跡群—平成17年度発掘調査報告—宿田遺跡』

盛岡市教育委員会 2008『柿ノ木平遺跡 堰根遺跡』

盛岡市教育委員会 2009『高櫓A遺跡』

矢巾町教育委員会 1986『徳田遺跡群詳細分布調査報告書』矢巾町文化財報告書第8集

矢巾町教育委員会 1995 『徳丹城址』  
矢巾町教育委員会 1998 『徳丹城址 第 43 次発掘調査』  
矢巾町教育委員会 1999a 『徳丹城址 第 44 次発掘調査』  
矢巾町教育委員会 1999b 『藤沢狄森古墳群』 矢巾町文化財報告書第 23 集  
山形村教育委員会 1995 『高屋敷遺跡』 山形村埋蔵文化財調査報告書 5  
和賀町教育委員会 1974 『長沼古墳』

## 宮城県

加美町教育委員会 2006 『壇の越遺跡』 X 加美町文化財調査報告書第 8 集  
河北地区教育委員会 1972 『和泉沢古墳群』 河北地区文化財調査報告第 1 集  
志間泰治 1975 『亘理の古墳』 亘理町  
仙台市教育委員会 1976 『安久東遺跡発掘調査概報』 仙台市文化財調査報告書第 10 集  
仙台市教育委員会 1979 『栗遺跡』 仙台市文化財調査報告書 第 14 集  
仙台市教育委員会 1982 『栗遺跡』 仙台市文化財調査報告書 第 43 集  
仙台市教育委員会 1983 『南小泉遺跡』 仙台市文化財調査報告書 55  
仙台市教育委員会 1995 『下飯田遺跡』 仙台市文化財調査報告書 第 191 集  
仙台市教育委員会 2000 『欠ノ上 II 遺跡発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第 264 集  
仙台市教育委員会 2004 『鴻ノ巣遺跡 第 7 次発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書第 280 集  
仙台市教育委員会 2007 『長町駅東遺跡 第 4 次調査』 仙台市文化財調査報告書 第 315 集  
仙台市教育委員会 2008 『南小泉遺跡 第 28 次発掘調査報告書』 仙台市文化財調査報告書 第 325 集  
仙台市教育委員会 2010 『西台畑遺跡第 1・2 次調査』 仙台市文化財調査報告書第 359 集  
仙台市教育委員会 2016 『郡山遺跡第 243 次調査・西台畑遺跡第 11 次調査』 仙台市文化財調査報告書第 442 集  
多賀城跡調査研究所 1970 『多賀城跡 昭和 45 年度発掘調査概報』 宮城県多賀城跡調査研究所年報  
多賀城市教育委員会 1985a 『大代横穴古墳群発掘調査報告書』 多賀城市文化財調査報告書第 7 冊  
多賀城跡調査研究所 1985b 『名生館遺跡 V』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 10 冊  
多賀城跡調査研究所 1987 『東山遺跡 I』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 12 冊  
多賀城跡調査研究所 1989 『東山遺跡 III』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 14 冊  
多賀城跡調査研究所 1991 『東山遺跡 V』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 16 冊  
多賀城跡調査研究所 1992a 『多賀城跡』 宮城県多賀城跡調査研究所年報  
多賀城跡調査研究所 1992b 『東山遺跡 VI』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 17 冊  
多賀城跡調査研究所 1993 『東山遺跡 VII』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 18 冊  
多賀城跡調査研究所 2002 『桃生城跡 X』 多賀城関連遺跡発掘調査報告書第 27 冊  
田尻町教育委員会 1998 『新田柵跡推定地』 田尻町文化財調査報告書 3  
築館町教育委員会 1993 『伊治城跡』 築館町文化財調査報告書第 6 集  
東松島市教育委員会 2007 『赤井遺跡 2006』 東松島市文化財調査報告書 第 3 集  
古川市教育委員会 1991 『名生館官衙遺跡』 XI 古川市文化財調査報告書 第 10 集  
古川市教育委員会 1992 『名生館官衙遺跡』 XII 古川市文化財調査報告書 第 11 集  
古川市教育委員会 2001 『名生館官衙遺跡 XX I 南小林遺跡』 古川市文化財調査報告書 第 28 集  
宮城県教育委員会 1981 『東北新幹線関係遺跡調査報告書 V』 宮城県文化財調査報告書第 77 集  
宮城県教育委員会 1982 『東北自動車道遺跡調査報告書 VI 御駒堂遺跡』 宮城県文化財調査報告書 第 83 集  
宮城県教育委員会 1983 『東北自動車道遺跡調査報告書 VIII 佐内屋敷遺跡』 宮城県文化財調査報告書 第 93 集

宮城県教育委員会 1984 『柳津館山館跡』 宮城県文化財調査報告書第 102 集  
宮城県教育委員会 1990 『利府町郷楽遺跡』 宮城県文化財調査報告書第 134 集  
宮城県教育委員会 1996 『米泉館跡』 宮崎町文化財調査報告書第 5 集  
宮城県教育委員会 1999 『一里塚遺跡 一第 44・47 次発掘調査報告書一』 宮城県文化財調査報告書 第 179 集  
宮城県教育委員会 2004 『沢田山西遺跡ほか』 宮城県文化財調査報告書第 196 集  
矢本町教育委員会 1991 『小松遺跡 赤井遺跡』 矢本町文化財調査報告書第 2 集  
矢本町教育委員会 2001 『赤井遺跡』 I 矢本町文化財調査報告書第 14 集  
利府町教育委員会 1978 『川袋古墳群』 利府町文化財調査報告書第 1 集

## 秋田県

秋田県教育委員会 1969 『胡桃館埋没建物遺跡第 2 次発掘調査概報—秋田県鷹巣町所在—』 秋田県文化財調査報告書第 19 集  
秋田県教育委員会 1976 『下藤根遺跡発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第 39 集  
秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅶ—柏木森遺跡・中の崎遺跡・明堂長根遺跡』 秋田県文化財調査報告書第 106 集  
秋田県教育委員会 1984 『東北縦貫自動車道発掘調査報告書Ⅹ I』 秋田県文化財調査報告書 119 集  
秋田県教育委員会 1986 『蝦夷塚古墳群発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第 136 集  
秋田県教育委員会 1987 『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 I 堪忍沢遺跡』 秋田県文化財調査報告書第 152 集  
秋田県教育委員会 1988a 『一般国道 7 号八竜能代道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 I—寒川 I 遺跡・寒川 II 遺跡—』 秋田県文化財調査報告書第 167 集  
秋田県教育委員会 1988b 『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ 太田谷地館跡』 秋田県文化財調査報告書第 172 集  
秋田県教育委員会 1990 『はりま館遺跡発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第 192 集  
秋田県教育委員会 1991 『国道 103 号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅲ 餌釣遺跡』 秋田県文化財調査報告書第 210 集  
秋田県教育委員会 1992 『秋田ふるさと村(仮称)建設事業に係る発掘調査報告書』 秋田県文化財調査報告書第 220 集  
秋田県教育委員会 1995 『払田柵跡—第 98 次～101 次調査概要—』 秋田県文化財調査報告書第 258 集  
秋田県教育委員会 1996 『秋田外環状道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ—大平遺跡—』 秋田県文化財調査報告書第 264 集  
秋田県教育委員会 1997 『池内遺跡 遺構編』 秋田県文化財調査報告書第 268 集  
秋田県教育委員会 1998a 『湯ノ沢岱遺跡』 秋田県文化財調査報告書第 273 集  
秋田県教育委員会 1998b 『法泉坊沢 II 遺跡』 秋田県文化財調査報告書第 278 集  
秋田県教育委員会 1999 『池内遺跡 遺物・資料編』 秋田県文化財調査報告書第 282 集  
秋田県教育委員会 2000 『上野遺跡』 秋田県文化財調査報告書第 295 集  
秋田県教育委員会 2001 『中谷地遺跡』 秋田県文化財調査報告書第 316 集  
秋田県教育委員会 2003 『開防遺跡・貝保遺跡』 秋田県文化財調査報告書第 361 集  
秋田県教育委員会 2005 『大見内遺跡・館野遺跡』 秋田県文化財調査報告書第 386 集  
秋田県教育委員会 2008a 『釈迦内中台 I 遺跡』 秋田県文化財調査報告書第 426 集  
秋田県教育委員会 2008b 『地藏岱遺跡』 秋田県文化財調査報告書第 434 集  
秋田市教育委員会 1981 『後城遺跡発掘調査報告書』

秋田市教育委員会 1984 『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 坂ノ上 E 湯ノ沢 A 湯ノ沢 C 湯ノ沢 E 湯ノ沢 F』  
秋田市教育委員会 1987 『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 下堤 C 遺跡』  
秋田城を語る友の会 2000 『秋田城跡（平成 11 年度）』  
羽後町教育委員会 1985 『大久保(杉宮)遺跡発掘調査概報』  
羽後町教育委員会 1987 『大久保(杉宮)遺跡発掘調査概報（柏原古墳群）』  
羽後町教育委員会 1994 『福島遺跡ほか発掘調査報告書』羽後町文化財調査報告書 12 集  
大館市教育委員会 2013 『扇田道下遺跡発掘調査報告書』大館市文化財調査報告書 第 8 集  
雄物川町郷土資料館 2003 『蝦夷塚古墳群』雄物川町文化財調査報告書第 3 集  
雄物川町教育委員会 2004a 『蝦夷塚古墳群』雄物川町文化財調査報告書第 3 集  
雄物川町教育委員会 2004b 『八卦遺跡』雄物川町文化財調査報告書第 5 集  
雄物川町教育委員会 2004c 『耳取遺跡 釘貫遺跡』雄物川町文化財調査報告書第 6 集  
鹿角市教育委員会 1997 『特別史跡大湯環状列石発掘調査報告書』(13) 鹿角市文化財調査資料 58  
鹿角市教育委員会 1998 『特別史跡 大湯環状列石発掘調査報告書(14)』鹿角市文化財調査資料 61  
奈良文化財研究所 2008 『胡桃館遺跡埋没建物部材調査報告書』  
能代市教育委員会 2002 『外荒巻館跡』能代市埋蔵文化財調査報告書第 13 集  
鹿角市教育委員会 2005 『物見坂Ⅲ遺跡・物見坂Ⅱ遺跡（1）』  
鹿角市教育委員会 2007 『鹿角沢Ⅱ遺跡』  
横手市教育委員会 2005 『オホン清水 A 遺跡 薬師前 B 遺跡』横手市埋蔵文化財調査報告 32

## 山形県

山形県教育委員会 1984a 『俵田遺跡第 2 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書 第 77 集  
山形県教育委員会 1984b 『沼田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告書 第 78 集  
山形県教育委員会 1986 『西沼田遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告 第 101 集  
山形県教育委員会 1987 『三軒屋物見台遺跡 発掘調査報告書（2）』山形県埋蔵文化財調査報告書 第 107 集  
山形県教育委員会 1989 『月光川左岸地区県営ほ場整備事業 浮橋遺跡 下長橋遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財調査報告 第 141 集  
山形県埋蔵文化財センター1996 『宮の下遺跡発掘調査報告書』  
山形県埋蔵文化財センター1998 『上高田遺跡 第 2・3 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第 57 集  
山形県埋蔵文化財センター2001 『三条遺跡 第 2・3 次発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第 93 集  
山形県埋蔵文化財センター2002 『馳上遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第 101 集  
山形県埋蔵文化財センター2017 『馳上遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書 第 225 集  
山形市教育委員会 2005 『双葉町遺跡』縄文時代～中世編 山形市埋蔵文化財調査報告書 第 24 集  
米沢市教育委員会 1981 『笹原遺跡発掘調査報告書』

## 福島県

会津坂下町教育委員会 1990 『若宮地区遺跡発掘調査報告書 樋渡台畑遺跡』会津坂下町文化財調査報告書 第 17 集  
いわき市教育委員会 1977 『白穴横穴群調査報告』

- いわき市教育委員会 1981『朝日長者遺跡 夕日長者遺跡』いわき市埋蔵文化財調査報告第 6 冊
- いわき市教育委員会 1987『石坂遺跡 古代から近世の集落跡の調査』いわき市埋蔵文化財調査報告第 17 冊
- 河東町教育委員会 1981『倉道遺跡』
- 河東町教育委員会 2001『古屋敷遺跡』河東町文化財調査報告書第 14 集
- 塩川町教育委員会 1998『高森山遺跡』塩川町文化財調査報告第 5 集
- 塩川町教育委員会 2004『内屋敷遺跡』塩川町文化財調査報告 第 12 集
- 棚倉町教育委員会 1985『松並平遺跡』棚倉町埋蔵文化財調査報告書 第 4 集
- 福島県教育委員会 1982『母畑地区遺跡発掘調査報告：国営総合農地開発事業 9』福島県文化財調査報告書 第 107 集
- 福島県教育委員会 1989『国営総合農地開発事業矢吹地区遺跡発掘調査報告書 4』福島県文化財調査報告書 第 206 集
- 福島県教育委員会 1992『国営総合農地開発事業母畑地区遺跡発掘調査報告 3 2 弥明遺跡』福島県文化財調査報告書 第 278 集
- 福島県教育委員会 1994『原町火力発電所関連遺跡調査報告Ⅳ』福島県文化財調査報告書 第 297 集
- 福島県教育委員会 1996『母畑地区遺跡発掘調査報告：国営総合農地開発事業 39』福島県文化財調査報告書 第 328 集
- 福島県教育委員会 1998a『常磐自動車道遺跡調査報告 1 1 大猿田遺跡（二次）』福島県文化財調査報告書 第 341 集
- 福島県教育委員会 1998b『福島空港・あぶくま南遺跡遺跡発掘調査報告 1』福島県文化財調査報告書 第 352 集
- 福島県教育委員会 1999『福島空港公園遺跡発掘調査報告書 1』福島県文化財調査報告書 第 358 集
- 福島県教育委員会 2001『常磐自動車道遺跡調査報告 2 4 鍛冶屋遺跡（2 次調査）』福島県文化財調査報告書 第 377 集
- 福島県教育委員会 2002『福島空港・あぶくま南遺跡遺跡発掘調査報告 1 2』福島県文化財調査報告書 第 394 集
- 三春町教育委員会 1994『田村西部工業団地関連遺跡調査報告Ⅱ』三春町文化財調査報告書 21

## 茨城県

- 石岡市教育委員会 1977『舟塚山周辺古墳群発掘調査報告書 1』
- 石岡市教育委員会 1978『舟塚山古墳群(10 号・12 号墳)発掘調査報告書Ⅱ』
- 茨城県教育財団 1983『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 5』茨城県教育財団文化財調査報告書 第 20 集
- 茨城県教育財団 1991『永国地区住宅団地建設予定地内埋蔵文化財調査報告書 寺家ノ後 A・B ほか』茨城県教育財団調査報告第 60 集
- 茨城県教育財団 2001『中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ 中原遺跡 3』茨城県教育財団文化財調査報告書 第 170 集
- 茨城県教育財団 2002『上野陣場遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告書 第 182 集
- 茨城県教育財団 2003『二の沢 A 遺跡 二の沢 B 遺跡（古墳群） ニガサワ古墳群』茨城県教育財団文化財調査報告書 第 208 集
- 茨城県教育財団 2005a『宮後遺跡 3』茨城県教育財団文化財調査報告書 第 241 集
- 茨城県教育財団 2005b『大塚遺跡 I』茨城県教育財団文化財調査報告書 第 242 集
- 茨城県教育財団 2006『島名熊の山遺跡Ⅶ』茨城県教育財団文化財調査報告書 第 264 集
- 茨城県教育財団 2007『島名熊の山遺跡Ⅷ』茨城県教育財団文化財調査報告書 第 280 集

茨城県住宅供給公社 1975 『土浦市烏山遺跡群』  
茨城考古学会 1969 『宮中野古墳群調査報告』  
大場磐雄編 1971 『常陸大生古墳群』 雄山閣出版  
鹿島市教育委員会 1998 『鹿島市内遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書 19』 鹿島の文化財第 105 集  
鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 2005 『神野向遺跡』 鹿嶋市の文化財 第 117 集  
鹿嶋市文化スポーツ振興事業団 2013 『志崎古墳群 志崎 1 号墳発掘調査報告書』 鹿嶋市の文化財第 148 集  
上智大学史学会 1963 『七塚古墳群の調査』  
大洋村教育委員会 1981 『常陸梶山古墳』  
勝田市文化・スポーツ振興公社 1993 『武田VI 1992 年度武田遺跡群発掘調査の成果』 勝田市文化・スポーツ振興  
公社文化財調査報告 8  
土浦市遺跡調査会 1997 『根鹿北遺跡・栗山窯跡発掘調査報告書』  
土浦市教育委員会・土浦市遺跡調査会 1991 『木田余台 I』  
美浦村教育委員会 1996 『興津地区遺跡群 高野台遺跡・原畑遺跡・稲荷山遺跡』 美浦村教育委員会埋蔵文化財発掘  
調査報告書 7  
武者塚古墳調査団 1986 『武者塚古墳』 新治村教育委員会

## 栃木県

山武考古学研究所 1994 『栃木県芳賀町免の内台遺跡 II』 栃木県芳賀町文化財報告 16  
下野古代文化研究会 1975 『井頭遺跡』 栃木県埋蔵文化財報告 第 14 集  
栃木県教育委員会 1992a 『下野国分寺跡Ⅷ 遺物篇』 栃木県埋蔵文化財調査報告書 第 123 集  
栃木県教育委員会 1992b 『辻の内遺跡・柿の内遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告書 第 127 集  
栃木県教育委員会 1994 『金山遺跡 II』 栃木県埋蔵文化財調査報告書 第 148 集  
栃木県教育委員会 1996a 『宮の内 A 遺跡・宮の内 B 遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告書 第 175 集  
栃木県教育委員会 1996b 『金山遺跡Ⅳ』 栃木県埋蔵文化財調査報告書 第 179 集  
栃木県教育委員会 1998 『清六Ⅲ遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告 第 218 集  
栃木県教育委員会 1999 『清六Ⅲ遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告 第 227 集  
栃木県教育委員会 2000 『那須官衙関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ』 栃木県埋蔵文化財調査報告書 第 235 集  
栃木県教育委員会 2001 『古橋 I・II 遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告書 第 247 集  
栃木県教育委員会 2007 『東谷・中島地区遺跡群 8 砂田遺跡 (4～6・18・19・23・24 区)』 栃木県埋蔵文化  
財調査報告書 第 305 集  
栃木県教育委員会 2012 『東谷・中島地区遺跡群 13 砂田遺跡』 栃木県埋蔵文化財調査報告書 第 335 集  
日本窯業史研究所 1990 『栃木県二宮町 蟹が入遺跡』  
日本窯業史研究所 1992 『栃木県上三川町 上ノ原・向原南遺跡』  
日本窯業史研究所 1995 『栃木県上三川町殿山遺跡 I』  
芳賀町教育委員会 1985 『免の内台遺跡発掘調査概報』

## 群馬県

赤城村教育委員会 2005 『宮田諏訪原遺跡 I・II 榛名山噴火軽石・火山灰に埋没した古墳時代祭祀遺跡』 赤城村  
埋蔵文化財発掘調査報告書 30  
赤堀村教育委員会 1978 『赤堀村地藏山の古墳 2』 群馬県佐波郡赤堀村文化財調査報告 8  
安中市教育委員会 1991 『嶺・下原遺跡』

太田市教育委員会 1986 『渡良瀬川流域遺跡群発掘調査概報 二の宮遺跡（第Ⅱ次）』  
太田市教育委員会・群馬県企業局 1992 『成塚住宅団地遺跡Ⅱ-3 遺物図版篇』  
粕川村教育委員会 1982 『前田 F1』  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985a 『糸井宮前遺跡Ⅰ』  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1985b 『小角田前遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1986 『大原Ⅱ遺跡・村主遺跡』  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1988 『田端遺跡』  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1992 『上野国分僧寺・尼寺中間地域（6）』 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第126集  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1996 『白井遺跡群—集落編Ⅱ（白井南中道遺跡）』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第302集  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1997 『多比良迫部野遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第213集  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999a 『下芝五反田遺跡 奈良・平安時代以降篇』 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第250集  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999b 『高浜広神遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第252集  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『石墨遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告 第286集  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2006 『富田漆田遺跡・富田下大日遺跡』 群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第372集  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2007 『東今泉鹿島遺跡』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第403集  
群馬県埋蔵文化財調査事業団 2009 『生品西浦遺跡Ⅱ』群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告 第463集  
群馬町教育委員会 1983 『中林遺跡調査概報』群馬町埋蔵文化財調査報告書6  
群馬町教育委員会 1990 『西三社免遺跡』 群馬町埋蔵文化財調査報告書29  
子持村教育委員会 1990 『黒井峯遺跡発掘調査報告書（本文篇）』子持村文化財調査報告書11  
渋川市教育委員会 1983 『有馬条理遺跡』渋川市発掘調査報告書第7集  
渋川市教育委員会 1994 『半田中原・南原遺跡』渋川市発掘調査報告書41  
昭和村教育委員会 1998 『森下中田遺跡』昭和村埋蔵文化財発掘調査報告書8  
沼田市教育委員会 1993 『沼田北部地区遺跡群Ⅱ（町田十二原遺跡）』  
藤岡市教育委員会 1993 『平井地区1号古墳 範囲確認調査報告書Ⅷ』  
藤岡市教育委員会 2004 『上落合岡遺跡』  
富士見村教育委員会 1995 『上百駄山遺跡・寺間遺跡・孫田遺跡』

## 埼玉県

大宮市遺跡調査会 1986 『吉野原遺跡 下加南遺跡』大宮市遺跡調査会報告別冊3  
大宮市遺跡調査会 1993 『氷川神社東遺跡 氷川神社遺跡 B-1 7号遺跡』大宮市遺跡調査会報告42  
大宮市遺跡調査会 1994 『市内遺跡発掘調査報告 根切遺跡（第2次調査）C-108号遺跡（第2次調査）』大宮市遺跡調査会報告別冊11  
岡部町教育委員会 1999 『中宿遺跡Ⅲ』埼玉県大里郡岡部町埋蔵文化財調査報告書4  
埼玉県遺跡調査会 1982 『宮ノ越遺跡』埼玉県遺跡調査会報告 第44集  
埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1982a 『毛呂山団地関係埋蔵文化財発掘調査報告書 伴六』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第11集

- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1982b 『関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告XIV』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第16集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1984 『関越自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書XIX 台耕地(Ⅱ)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第33集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1988 『将監塚・古井戸 歴史時代篇Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第71集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1989 『御伊勢原Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第79集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1991 『樋詰・砂田前Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第102集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1992 『新屋敷東 本郷前東』埼玉県埋蔵文化財調査報告書 第111集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1994 『稻荷前遺跡(B・C区)』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第145集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1995 『城北遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査報告書 第150集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1997a 『山王裏/上川入/西浦野本氏館跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第184集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1997b 『中堀遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第190集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1998 『砂田前』埼玉県埋蔵文化財調査報告書 第198集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2000 『熊野/新田』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第251集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2007 『飯積遺跡Ⅱ』埼玉県埋蔵文化財調査報告書 第334集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2009 『元宿遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査報告書 第365集
- 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 2016 『屋敷裏遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査報告書 第422集
- 鳩山窯跡群遺跡調査会・鳩山町教育委員会 1991 『鳩山窯跡群Ⅲ 工人集落篇(1)』鳩山窯跡群発掘調査報告書 3
- 鳩山窯跡群遺跡調査会・鳩山町教育委員会 1992 『鳩山窯跡群Ⅳ 工人集落篇(2)』鳩山窯跡群発掘調査報告書 4
- 鶴ヶ島町教育委員会 1984 『若葉台遺跡群J・K・L地点発掘調査概報』

## 千葉県

- 青山学院大学森台遺跡発掘調査団 1983 『千葉県山武町森台古墳群の調査』
- 市川市史編纂委員会 1971 『市川市史』第一巻 市川市
- 市原市教育委員会 1984 『上総国分寺台発掘調査概要Ⅻ 諏訪台古墳群』
- 市原市教育委員会 1987 『外迎山遺跡・唐沢遺跡・山見塚遺跡』市原市文化財センター調査報告書第20集
- 印旛郡市文化財センター1993 『千葉県佐倉市高岡遺跡群Ⅳ』印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第71集
- 印旛郡市文化財センター1994 『印旛村道山田平賀線予定地内埋蔵文化財調査報告書』印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第81集
- 印旛郡市文化財センター1999 『千葉県成田市市川栗遺跡群Ⅰ 子の神遺跡2・3・4次 東和田遺跡第2次』印旛郡市文化財センター発掘調査報告書第152集
- 江原台第一遺跡発掘調査団 1979 『江原台』
- 香取郡市文化財センター1991 『長部山遺跡』香取郡市文化財センター調査報告書第5集
- 香取郡市文化財センター1999a 『古屋敷遺跡』香取郡市文化財センター調査報告書第63集
- 香取郡市文化財センター1999b 『多古台遺跡群Ⅰ』香取郡市文化財センター調査報告書第68集
- 香取郡市文化財センター2002 『多古台遺跡群Ⅱ』香取郡市文化財センター調査報告書第80集
- 香取郡市文化財センター2003 『多古台遺跡群Ⅲ』香取郡市文化財センター調査報告書第84集

請西遺跡調査団 1977『請西』

木更津市教育委員会 1992『木更津市文化財調査集報Ⅰ 塚原7号墳・太田山古墳の調査』

木更津市教育委員会 1995『千束台遺跡群発掘調査報告書Ⅰ 塚原古墳群(30号墳・31号墳)』

木更津市教育委員会 1997『千束台遺跡群発掘調査報告書Ⅲ 塚原21号墳』

木更津市教育委員会 2001『請西遺跡群発掘調査報告書Ⅶ 庚申塚A・B遺跡』

木更津市教育委員会 2002『請西遺跡群発掘調査報告書Ⅷ 大山台遺跡』

君津郡市文化財センター1985『千葉県袖ヶ浦町永吉大遺跡群』君津郡市文化財センター発掘調査報告書 第12集

君津郡市文化財センター1986『高千穂古墳群』君津郡市文化財センター発掘調査報告書第20集

君津郡市文化財センター1988a『小浜遺跡群Ⅰ 俵ヶ谷古墳群』君津郡市文化財センター発掘調査報告書第37集

君津郡市文化財センター1988b『千葉県木更津市花山遺跡』君津郡市文化財センター発掘調査報告書 第38集

君津郡市文化財センター1990a『請西遺跡群Ⅰ 大山台 29・30号墳 諏訪谷横穴墓』君津郡市文化財センター発掘調査報告書第46集

君津郡市文化財センター1990b『小浜遺跡群Ⅲ 浜ヶ谷古墳・西谷塚・浜清水遺跡ほか』君津郡市文化財センター発掘調査報告書第47集

君津郡市文化財センター1992『千葉県袖ヶ浦市文脇遺跡』君津郡市文化財センター発掘調査報告書 第69集

君津郡市文化財センター1998『椿古墳群』君津郡市文化財センター発掘調査報告書第140集

君津郡市文化財センター1999a『椿古墳群Ⅱ』君津郡市文化財センター発掘調査報告書第151集

君津郡市文化財センター1999b『椿古墳群Ⅲ』君津郡市文化財センター発掘調査報告書第160集

山武郡市文化財センター1991『胡摩手台古墳群』山武郡市文化財センター調査報告書第10集

山武郡市文化財センター1994『南麦台遺跡』山武郡市文化財センター発掘調査報告書第18集

山武郡市文化財センター1995『油井古塚原遺跡群』山武郡市文化財センター調査報告書第25集

山武郡市文化財センター1996『藤ヶ谷遺跡・大平台遺跡・中ノ台遺跡・馬場A遺跡』山武郡市文化財センター調査報告書第30集

山武郡市文化財センター1997a『上岩ノ谷遺跡』山武郡市文化財センター調査報告書第36集

山武郡市文化財センター1997b『松尾城跡Ⅰ』山武郡市文化財センター調査報告書第45集

山武郡市文化財センター1999『松尾城跡Ⅱ』山武郡市文化財センター調査報告書第56集

山武考古学研究所 1982『山田・宝馬古墳群』

山武考古学研究所 1984『台の内古墳』

山武考古学研究所 1992『山田・宝馬古墳群 145号墳・155号墳・192号墳・193号墳の調査』

芝山はにわ博物館 1976『下総片野古墳群』芝山はにわ博物館研究報告Ⅳ

鈴木喜久二・中村繁治 1956「千葉県芝山古墳群殿塚第七号墳発掘略報」『古代』19・20合併号

田中新史 2000『上総市原台の光芒』市原古墳群刊行会

千葉県企業庁 1975『公津原』

千葉県都市公社 1974『市原市菊間遺跡』

千葉県都市公社 1975『千葉東南部ニュータウン1 椎名崎古墳群(第1次)』

千葉県文化財センター1976『千葉市誉田県立コロニー内遺跡』

千葉県文化財センター1977a『千葉東南部ニュータウン4 生浜古墳群』

千葉県文化財センター1977b『佐倉市江原台遺跡発掘調査報告書Ⅰ 第1次・第2次調査』

千葉県文化財センター1979『千葉東南部ニュータウン8 ムコアラク遺跡 小金沢古墳群』

千葉県文化財センター1980『我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書』

千葉県文化財センター1981『千葉東南部ニュータウン11 六通金山遺跡』

千葉県文化財センター1982a『千葉東南部ニュータウン 10 小金沢貝塚』  
千葉県文化財センター1982b『芝山町山田古墳群・山田出口遺跡』  
千葉県文化財センター1983a『千葉東南部ニュータウン 12 南二重堀遺跡』  
千葉県文化財センター1983b『千葉東南部ニュータウン 14 バクチ穴 有吉(3次) 有吉南遺跡』  
千葉県文化財センター1983c『佐倉市立山遺跡』  
千葉県文化財センター1984『千葉東南部ニュータウン 15 馬ノ口遺跡・有吉城跡・白鳥台遺跡』  
千葉県文化財センター1988『東金市久我台遺跡』  
千葉県文化財センター1991a『佐倉市大作遺跡』千葉県文化財センター調査報告第 172 集  
千葉県文化財センター1991c『多古町南借当遺跡』千葉県文化財センター調査報告第 195 集  
千葉県文化財センター1991d『佐倉市栗野 I・II 遺跡』千葉県文化財センター調査報告第 199 集  
千葉県文化財センター1992a『四街道市内黒田遺跡群』千葉県文化財センター調査報告第 200 集  
千葉県文化財センター1992b『佐倉市松向作遺跡』千葉県文化財センター調査報告第 215 集  
千葉県文化財センター1994a『四街道市御山遺跡(1)』千葉県文化財センター調査報告第 242 集  
千葉県文化財センター1994b『八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡他』千葉県文化財センター調査報告第 245 集  
千葉県文化財センター1994c『海上町岩井安町遺跡』千葉県文化財センター調査報告第 247 集  
千葉県文化財センター1996『佐倉市池向遺跡』千葉県文化財センター調査報告第 268 集  
千葉県文化財センター2003『千葉東南部ニュータウン 26 千葉市椎名神社遺跡ほか』千葉県文化財センター調査報告第 443 集  
千葉県文化財センター2006『千葉東南部ニュータウン 35 千葉市椎名崎古墳群 B 支群』千葉県文化財センター調査報告第 544 集  
千葉県文化財センター2009『四街道市清水遺跡』千葉県文化財センター調査報告第 630 集  
千葉県文化財センター2011『四街道市新久遺跡』千葉県文化財センター調査報告第 668 集  
千葉県文化財センター2012『四街道市出口遺跡』千葉県文化財センター調査報告第 675 集  
千葉県教育委員会 1984『龍角寺古墳群発掘調査報告書—第 2 次(昭和 58 年度)—』  
千葉県教育委員会 1988『龍角寺古墳群第 101 号古墳発掘調査報告書』  
千葉市文化財調査協会 1998『千葉市戸張作遺跡』  
銚子市教育委員会 1979『銚子市野尻遺跡発掘調査報告書』  
東金市菅谷古墳群及び南外輪戸遺跡調査会 1985『東金市菅谷古墳群及び南外和戸遺跡 滝・木浦 II 遺跡発掘調査報告所』  
東京大学文学部考古学研究室 1969『我孫子古墳群』安孫子町教育委員会  
夏見大塚遺跡調査団 1975『夏見大塚遺跡』  
日本国有鉄道常磐線複々線工事関係遺跡調査団 1972『中馬場遺跡 妻子原遺跡』  
日本住宅公団東京支社, 千葉県都市公社 1974『八千代市村上遺跡群』  
日本鉄道建設公団 千葉県都市公社 1973『小金線』  
日本文化財研究所 1977『千葉県萩ノ原遺跡発掘調査報告』日本文化財研究所調査報告 5  
野田市遺跡調査会 1985『二ツ塚古墳群』  
山田遺跡調査会 1977『山田水呑遺跡』  
八日市場市教育委員会 1986『飯塚遺跡群発掘調査報告書』  
四街道千代田遺跡調査会 1972『千代田遺跡』  
早稲田大学経僧塚古墳発掘調査団 2010『武射 経僧塚古墳 石棺編 報告』

## 東京都

大島支庁遺跡調査会 1994『大島オンダシ遺跡』

落川遺跡調査会 1986『日野市落川遺跡調査概報Ⅳ』

北区教育委員会 2000『中里峽上遺跡Ⅱ 田端西台通遺跡Ⅳ 田端不動坂遺跡Ⅳ 田端町遺跡Ⅱ』 北区埋蔵文化財調査報告 28

国分寺市遺跡調査会 2001『武蔵国分寺跡発掘調査概報 25 昭和 55～59 年度僧寺寺域内等の調査』

東京都埋蔵文化財センター1983『多摩ニュータウン遺跡 昭和 57 年度（第 1 分冊）』 東京都埋蔵文化財センター調査報告第 4 集

東京都埋蔵文化財センター1988『多摩ニュータウン遺跡 昭和 61 年度（第 1 分冊）』 東京都埋蔵文化財センター調査報告第 9 集

東京都埋蔵文化財センター1998『三吉野遺跡群』 東京都埋蔵文化財センター調査報告第 60 集

東京都埋蔵文化財センター2001『東京都あきる野市天神前遺跡 瀬戸岡古墳群 上賀多遺跡 新道通遺跡 南小宮遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告第 95 集

東京都埋蔵文化財センター2007『日野市 No.16 遺跡』 東京都埋蔵文化財センター調査報告 第 312 集

東京造形大学宇津貫校地内埋蔵文化財発掘調査団 1992『南多摩窯跡群』

東北新幹線赤羽地区遺跡調査会 1992『赤羽台遺跡』

都立府中病院内遺跡調査会 1995『武蔵国分寺跡西方地区 武蔵台遺跡Ⅱ』

中田遺跡調査会 1967『八王子中田遺跡 古墳時代集落址の調査』

中田遺跡調査会 1968『八王子中田遺跡 古墳時代集落址の調査』 資料篇Ⅲ

なすな原遺跡調査団 1996『なすな原遺跡 No. 2 地区調査』

野村不動産株式会社 2008『武蔵国府関連遺跡調査報告』

八王子市中田遺跡調査会 1968『八王子中田遺跡』 資料編Ⅲ

府中市教育委員会 府中市遺跡調査会 1999a『武蔵国府関連遺跡調査報告 2 2 国府地域の調査 1 8 武蔵国分寺跡調査報告 2 南方地域の調査 2』

府中市教育委員会 府中市遺跡調査会 1999b『武蔵国府関連遺跡調査報告 23 国府地域の調査 19』 天神町遺跡調査報告 3・府中市埋蔵文化財調査報告 23

船田遺跡調査会（第Ⅱ次）1972『船田 東京都八王子市船田遺跡の第Ⅱ次調査』

町田市教育委員会 1972『鶴川遺跡群』 雄山閣

守屋栄介 2001『東京都日野市落川遺跡』

## 神奈川県

池ノ辺遺跡調査会 日本考古学研究所 1980『池ノ辺 神奈川県藤沢市池ノ辺遺跡の調査』

海老名市遺跡調査会 1992『海老名市大谷向原遺跡』

尾尻八幡山遺跡調査団 1976『尾尻八幡山』

神奈川県教育委員会 1975『鳶尾遺跡』 神奈川県埋蔵文化財調査報告 7

神奈川県教育委員会 1979『上浜田遺跡』 神奈川県埋蔵文化財調査報告 15

神奈川県立埋蔵文化財センター1990『草山遺跡Ⅲ』 神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 18

かながわ考古学財団 1998『下大槻峯遺跡(No.30)』 かながわ考古学財団調査報告 35

かながわ考古学財団 1999『池子遺跡群Ⅷ』 かながわ考古学財団調査報告 44

かながわ考古学財団 2000『天神谷戸遺跡』 かながわ考古学財団調査報告 75

かながわ考古学財団 2003『上ノ町遺跡』 かながわ考古学財団調査報告 143

構之内遺跡発掘調査団 1994 『神奈川県平塚市構之内遺跡発掘調査報告書』  
倉見才戸遺跡発掘調査団 2001 『神奈川県高座郡寒川町倉見才戸遺跡第4次発掘調査報告書』  
真田・北金目遺跡調査会 1999 『平塚市真田・北金目遺跡群発掘調査報告書』 1  
相武考古学研究所 1989 『神奈川県海老名市相模国分尼寺関連遺跡第1次調査発掘調査概報』  
玉川文化財研究所 2014 『田中・第六天遺跡 第2地点 発掘調査報告書』 玉川文化財研究所  
茅ヶ崎市文化振興財団 2007 『西久保・大屋敷B遺跡』 茅ヶ崎市文化振興財団調査報告第13集  
成瀬第二地区遺跡調査会 都市基盤整備公団 2002 『神奈川県伊勢原市成瀬第二地区遺跡群』  
法政大学多摩校地城山地区遺跡調査委員会 1989 『法政大学多摩校地城山地区風間遺跡群発掘調査報告書』  
本郷遺跡調査団 1988 『海老名本郷（V）』  
本郷遺跡調査団 1989 『海老名本郷（VII）』  
本郷遺跡調査団 1996 『海老名本郷（XIV）』  
望地遺跡調査団 1984 『神奈川県海老名望地遺跡調査報告書 海老名望地遺跡』  
谷原遺跡調査団 1972 『谷原 神奈川県相模原市谷原遺跡の調査』  
蕨根不動原遺跡調査団 2007 『横浜市都筑区蕨根不動原遺跡発掘調査報告書』  
影向寺遺跡第2次発掘調査団 1986 『川崎市宮前区 影向寺遺跡 第2次発掘調査報告書』  
横浜市ふるさと歴史財団 2003 『笠間中央公園遺跡発掘調査報告書』

## 新潟県

上越市教育委員会 1979 『岩木地区遺跡群発掘調査報告書』  
十日町市教育委員会 2003 『馬場上遺跡発掘調査報告書』 十日町市埋蔵文化財発掘調査報告書 第22集  
新潟県教育委員会 1989 『新新バイパス関係発掘調査報告書 山三賀II遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第53集  
新潟県教育委員会 1994 『一ノ口遺跡東地区』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第60集  
新潟県教育委員会 2010 『荒町南新田遺跡』 新潟県埋蔵文化財調査報告書第210集

## 山梨県

山梨県教育委員会 1987 『二之宮遺跡』 山梨県埋蔵文化財センター調査報告 第23集

## 静岡県

浜松市教育委員会 1990 『都田地区発掘調査報告書』

## 愛知県

安城市教育委員会 1996 『御用池遺跡』 安城市埋蔵文化財発掘調査報告書 第1集

## 論文の内容の要旨

論文題目 古代東北地方社会構造の研究  
氏名 林 正之

本博士論文では、古代国家によって「蝦夷」と呼ばれた東北地方北部の人々の社会の実態を検証する。従来「蝦夷」をめぐる議論は、「蝦夷」対古代国家という二項対立図式に陥る傾向があった。また東北地方北部に所謂「末期古墳」やカマド付竪穴建物、土師器等の文化要素が広範に浸透していることが認められながらも、それらは全て「蝦夷」社会側が古墳文化を受容したものと、文化伝播論的な捉え方が通説であった。こうした前提に立つ限り、いかに東北北部の考古学資料を膨大に集め精緻に分析しようとも、古代国家の内部とは異質な人々の歴史という枠を脱することは出来ない。

しかし、古代国家の中核たる畿内地方と東北北部の間には、広大な「中間地帯」が広がり、特にその周縁に位置する関東甲信越や東北地方南部の人々は、古墳時代後期以来、東北北部との間に、必ずしも古代国家が把握しえない独自の交流をもってきた。住居や墓制といった内面生活に関わるレベルにおいて、古墳文化の要素が東北地方北部へと浸透したのはその証左といえよう。さらに「蝦夷」と「中間地帯」の双方には、「東北北部」や「関東」といった大きな地理的枠組みでは掬いきれない多様な地域性があり、小地域間での文化的諸要素の異同が、よりミクロなレベルでの交通を示す手がかりとなりうる。

本論文では、東北地方北部の社会の動向を、「中間地帯」の周縁に属する東北南部～関東甲信越との多系的・重層的な交通関係のダイナミズムにおいて捉え、古代国家が「蝦夷」を分断していく過程と、それに対する東北北部・「中間地帯」双方の諸地域の主体的動きを検証する。その指標として、有力者層によって造営されその世界観を反映する墓制、有力者層より広汎な人々によって営まれその生活空間に対する意識を反映する竪穴建物、さらに生活に不可欠な先端的技術の一つである鉄器生産の技術系譜を最もよく反映する鉄製鋤先に着目する。

第1章では、「蝦夷」とよばれた人間集団の属性や、その地域的分節関係に関わる研究史を整理する。「蝦夷」を倭人に対する異「人種」・異「民族」とする説と、倭人との差異を認めず単に国家に属しない「辺民」とする説は、戦前以来長らく対立してきたが、戦後の考古学や地名研究の進展によって、現在は前者が通説化している。しかしその過程で、「蝦夷」と古代国家の二項対立図式が成立するとともに、太平洋側と日本海側との文化的な非連続性や、「東国」という「中間地帯」の人々の主体性といった、東日本全般の地域分節に関わる視角は後退する。本章ではその過程を跡付け、失われた視角のもつ意義を再検証して、本論文全体の研究史上の位置を示す。

第2章では、墓制を通じて「蝦夷」社会と「中間地帯」との交通を考察する。7世紀から10世紀、東北地方北部に営まれた所謂「末期古墳」は、通説では東北北部の社会が古墳文化を受容したことにより成立した「蝦夷」独自の墓制とされる。しかし、「末期古墳」には主体部の構造や墳丘上への遺物の供献方法、副葬品の内容等に多様な地域性が認められ、その各々の要素を東北南部～関東甲信越の後期古墳と比較すると、特定地域間に濃厚で直接的な連関性が認められる。すなわち土坑系「末期古墳」には「常総中央部」（千葉県東京湾岸北部から霞ヶ浦沿岸）の集団の、礫槨系「末期古墳」には関東西部～北西部（神奈川県西部、東京都西部、埼玉県西部～北西部）の集団の直接的影響が認められる。一方縄文文化の墓制と「末期古墳」との共通要素は全く認められない。このことから「末期古墳」は、古墳文化側の祭式・

世界観がそのまま東北北部に流入したものと考えることができ、その背景には東北北部社会による古墳文化の受容ではなく、古墳文化側からの人間集団そのものの移動を想定しうる。移動の動機には、馬産や琥珀採掘の新天地を求める動きのほか、律令国家形成のため統制を強める古代国家から退避する社会的気運が考えられる。さらに8世紀後半以降、土坑系「末期古墳」は「円形周溝」へと変容し、石狩低地帯や横手盆地を經由して日本海側の集団へと伝わり、9世紀後半から10世紀前半、東北北部日本海側を通じた秋田県米代川流域や青森県津軽地域への新たな移民とともに、これらの地域へと進出する。

第3章では、集落遺跡を構成する基本単位であるカマド付き竪穴住居の系譜を、特にカマドの位置や煙道の構造、カマドの芯材等の構造に着目して分析する。カマド付き竪穴住居は古墳文化圏から東北地方北部へと流入した文化要素の一つであり、その形態は地域により様々である。6世紀後半以降の関東甲信越・東北南部のカマド付き竪穴住居は、北側を中心とする壁の中央にカマドを設ける太平洋側系と、南側を中心とする壁の偏寄した位置にカマドを設ける日本海側系に大別される。7～8世紀、東北北部太平洋側で太平洋側系住居が密に展開し、一部は日本海側の鹿角地域や津軽地域に進出する。一方、道央・道南や日本海側の横手地域では、両系譜の住居が併存する。さらにカマドの煙道や芯材に注目すると、芯材に切石等の石材を用い、短煙道・無煙道を一定数含む関東地方太平洋側沿岸部の特徴が、二戸・三陸・八戸地域と道央・道南の太平洋側系住居に認められる一方、芯材に長胴甕や筒形土製品を用いる関東地方内陸部の特徴が、盛岡地域や上北南部地域、津軽地域の太平洋側系住居に認められ、各々に、小地域間の緊密な連絡が想定される。9世紀に入ると、東北北部太平洋側では、依然太平洋側系住居が主体だが、道央・道南や東北北部日本海側の太平洋側系住居は断絶して日本海側系一色となる。そして9世紀後半～10世紀前半、米代川流域と津軽・青森平野に日本海側系住居が爆発的に増加し、岩手県安比川流域や青森県上北北部地域等を通じて太平洋側へも進出して、両系譜の交流が生じる。なお津軽・青森地域の日本海側系住居では、カマドの煙道構造や袖芯材に前代の太平洋側系の要素を遺した津軽在地系と、米代川流域の様相に近い外来の米代川系の二系統が、長期にわたり併存する。こうした錯綜の後、10世紀後半～11世紀の集落再編に伴い、東北地方北部全体に日本海側系住居が浸透する。

第4章では、製造工程の複雑さや規格性の高さから、鉄製品の製造技術の系譜の指標として特に有効性の高い鉄製鋏先に注目し、全体および風呂の規格の比較によって、東北地方北部と「中間地帯」との関係を探る。7世紀代、東北地方南部以南の鉄製鋏先は、古墳時代後期の横長の凹字形を呈するものから縦長のU字形を呈する新規格の「新U字形鋏先」へと急激に変化し、11世紀代までほぼ同一の規格を維持する。その背景には律令国家による生産活動の統制が想定される。一方東北北部太平洋側では、7世紀後半代、古墳時代後期の関東・南東北の系譜を引く多様な鉄製鋏先が独自に製造され、9世紀後半以降の鉄生産の飛躍的に進展とともに、「新U字形鋏先」とは異なる東北北部独自の規格の鋏先が成立し、太平洋側・日本海側双方に展開する。その背景には、太平洋側・日本海側両地域間における鉄器生産技術の交流が想定される。

第5章ではこれらを踏まえて、『六国史』を中心とした文献史料と考古資料との比較を行う。7世紀代、集落遺跡が皆無である日本海側に阿倍比羅夫の遠征記事が見られるのに対し、集落が多数分布する太平洋側に関する記事がほぼ皆無であることは、「末期古墳」や竪穴住居が示す関東甲信越と東北北部太平洋側との密接かつ複雑な関係を、倭王権が十分把握しきれなかったことの反映と考えられる。その後8世紀を通じて、中央政府の東北北部に対する直接介入は進まず、8世紀後葉の征夷戦争の発端も、陸奥産金や新興豪族道嶋氏らが主導する位階・氏姓獲得競争等、政府が管轄しきれない諸勢力の利権抗争によ

り、宮城県北部で、本来外見上区別がなかった「蝦夷」と非「蝦夷」の軋轢が顕在化し、社会不安が増大したことにある。「蝦夷」の実態を把握しないまま、中央政府により「征夷」のための大規模な戦時体制が創出されたものの、戦闘は殆どなく、集積した物資や人員を使って王臣家や現地軍官による交易や開発が横行する。これを察知した桓武天皇により胆沢地域の武力制圧が強硬に遂行された結果、東北地方太平洋側は「蝦夷」・非「蝦夷」とともに疲弊し、新たな北方交易や開発の場として東北北部日本海側が浮上する。文屋綿麻呂らによる三陸・二戸攻略が始まると、出羽守大伴今人らは、こうした日本海側の交易ネットワークの発展を背景に、現地勢力と連携して東北北部太平洋側の情勢を把握し、二戸・八戸・三陸地域の勢力との停戦に主導的役割を果たす。この結果、東北北部日本海側・道南・道央で日本海側系の優位が確立したことが、太平洋側系住居から成る集落の断絶等に対応すると考えられる。また最後まで国家の脅威とされた「津軽蝦夷」は、上北南部から津軽平野にかけて分布する、長胴甕をカマドの芯材とする竪穴住居を営む集団と考えられ、その後 9 世紀後半、「津軽在地系」の住居を営む集団として存続し、元慶の乱の文献に登場する「津軽俘囚」へとつながる。

このように、国家によって「蝦夷」と呼ばれた人々は、7～8 世紀代、東北北部と古代国家の「中間地域」周縁部の多様な要素の影響を受ける一方、続縄文文化の要素を殆どもたず、末期古墳や鉄製鋏先の様相からも、関東甲信越からの移民と考えるのが妥当である。彼らは特に住居構造によって太平洋側系と日本海側系に大別され、当初太平洋側系の集団の方が圧倒的に多数かつ多様であった。しかし 8 世紀後半から 9 世紀初頭の中央政府の直接介入に伴う社会変動により、日本海側系の集団が台頭して両集団間の交流が進み、10 世紀後半代には、東北北部全域での物質文化上の統合が生じたといえる。